

令和5年度
東大和市・東村山市

地域の戦争・平和学習 及び 広島派遣事業 報告書



令和5年度 東大和市・東村山市 地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業 報告書

東大和市・東村山市広島派遣事業実行委員会



令和5年12月
東大和市・東村山市広島派遣事業実行委員会

東大和市長あいさつ

東大和市・東村山市広島派遣事業実行委員会 委員長

東大和市長 **和地仁美**



先の大戦後の復興により、私たちは豊かで便利な生活と平和を享受できています。そのような日々の中で、平和の大切さは常に心に持ち続けているとはいえ、ロシアによるウクライナ侵攻など一般市民が戦禍に巻き込まれる状況を目の当たりにする昨今、戦争は昔日のこと、過ぎ去ったことという感覚に陥っていたことに気づかされます。

先の大戦から78年目となり、当時の出来事を語ることのできる方々は年々減少しております。そのような中であっても、戦争の悲惨さ、平和の大切さを、次代を担う世代へ伝えていくことは、今を生きる私たちに課せられた、未来に対する大きな責任、そして使命であると考えます。

東村山市と連携し実施しております「地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業」において、今年は小学生9名、中学生11名に、身近な地域の戦禍や広島市における原爆投下の惨状を学んでいただきました。

参加した小・中学生たちは、初めに、自分たちが住んでいる地域がどのように戦争の脅威にさらされていたのかを学習いたしました。

東村山市では、市内在住の向井保之様から、幼少の頃に長崎で被爆された体験を語っていただくという貴重な機会を得ることが出来ました。

また、東大和市においては、戦災建造物として市の文化財に指定されております「旧日立航空機株式会社変電所」を見学していただきました。この変電所は、昭和20年の空襲による無数の機銃掃射や爆撃の痕を当時のまま残しており、小・中学生の皆様には、戦争の脅威を間近に感じていただけたことと思います。

その後、8月には世界で最初に原子爆弾が投下された広島市を訪問し、被爆者の講話聴講や、一瞬にして破壊された街の記録、広島市の復興の様子などを見学していただきました。

また、8月6日に執り行われた平和記念式典にも参列し、平和への祈りをささげるとともに、広島平和記念資料館等の見学により、戦争を二度と繰り返してはならないことを深く胸に刻んでいただきました。

広島派遣後に実施した両市の報告会では、本事業に参加された小・中学生が学んだこと、そして、恒久平和の実現に向けた平和への想いを聞くことができました。次世代を担う小・中学生が、過去の戦争の記憶や犠牲となった方々への想いを決して忘れることなく、この事業で学んだことをさらに次の世代に伝え続けていただくことを願っております。

東大和市におきましては、恒久平和の実現と核兵器の廃絶を願う「平和都市宣言」を平成2年に行い、平和を愛する人々と手を携えて、戦争と核兵器のない世界の実現に寄与することを誓っております。

また、今年、多摩26市では、平和首長会議の東京都多摩地域平和ネットワークを立ち上げ、広域的な平和意識の醸成に取り組み始めました。このような様々な取組により、平和の尊さをより多くの方に認識いただくことが世界平和につながるものと信じております。

結びに、本事業にご参加いただきました小・中学生及びその保護者の皆様、また、事業の実施に向けてご協力いただきました多くの皆様に心から御礼を申し上げます。

令和5年12月

東村山市長あいさつ

東大和市・東村山市広島派遣事業実行委員会 副委員長
東村山市長 **渡部 尚**



人類史上最初の原子爆弾が広島と長崎に投下され、まちを一瞬にして破壊し、多くの人々の尊い命を奪った日から、今年で78年が経過しました。辛うじて生き延びた人々も、目に見えない放射線の障害に苦しみ、心身に負った深い傷は、今もなお、決して消えることはありません。

今年も、東大和市と合同で市内の小・中学生を対象に「地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業」を実施いたしました。両市の小・中学生20人は、自分たちが住む地域における戦争の歴史等を学び、また実際に広島を訪問し、平和記念式典の参列や平和記念資料館の見学等を行い、平和への理解を深めてきました。

さらに、今回は地域の戦争・平和学習の一環で、長崎にて被爆し、現在は東村山市に在住されている向井保之様に被爆体験談を語っていただきました。向井様が語られた戦時下の暮らしや、原爆投下後の凄惨な様子は、当時の向井様と同じ年齢でありながら全く違う時代を生きる子ども達の心にも強く響いたことと存じます。被爆者の平均年齢が85歳を超え、被爆されたかたの声を直接聞くことができる機会も少なくなっている中、大変貴重な機会をいただいたこと、向井様に深く感謝申し上げます。

さて、今年5月、G7サミットが広島で行われ、各国首脳によっていわゆる「広島ビジョン」が打

ち出されました。核廃絶を究極の目標と定めたことは大きな前進である一方、核抑止論に基づく核保有を正当化しているとの指摘もあります。ロシアによるウクライナ侵攻、北朝鮮による相次ぐ弾道ミサイル発射など、私達を取り巻く世界情勢はますます厳しくなりつつありますが、そのような時こそ核廃絶に向けて、各国は核抑止論に捉われない具体策を練る必要性があります。

東村山市においては、昭和39年に「平和都市宣言」を行い、昭和62年には「核兵器廃絶平和都市宣言」を行い、恒久平和の実現に向けて、さまざまな取り組みを重ねてまいりました。また、今年新たに、多摩26市として平和首長会議の東京都多摩地域平和ネットワークを立ち上げたところであります。一自治体の力は世界と比較すると脆弱かもしれませんが、このような取り組みの積み重ねがいずれ世界を動かす大きな一歩になると信じております。

次世代を担う小・中学生たちが本事業を通じて何を学び、平和についてどのように感じ、受け止めたのか、ぜひこの報告書をご覧ください、一緒に平和について考える機会にさせていただければ幸いです。

結びに、本事業にご参加いただきました小・中学生及び保護者の皆様、ご協力いただきました皆様に心より御礼申し上げます。

令和5年12月



次

1	実施概要・日程	4
2	参加者名簿	5
3	地域の戦争・平和学習会	6
4	広島派遣	9
5	報告会	14
6	参加者感想文	
	Aグループ	20
	Bグループ	25
	Cグループ	30
	Dグループ	35
7	参加者アンケート	40
8	資料	
	東大和市平和都市宣言・	
	東村山市核兵器廃絶平和都市宣言	46

1

実施概要・日程

事業の趣旨・目的

東大和市・東村山市の小・中学生が、自分たちが住んでいる身近な地域でさえも戦争の脅威にさらされていたことを学習するとともに、世界で初めて核兵器が使われた広島市の惨状の記録と記憶を実際に見聞することで、戦争の悲惨さや命の尊さについて考え、平和意識の高揚を図ります。

実施経過

7月6日(木) 東大和市 7月7日(金) 東村山市	事業全体の事前説明会
7月27日(木)・7月28日(金)	地域の戦争・平和学習会(東村山市・東大和市)
8月5日(土)～7日(月) 2泊3日	広島派遣(広島市)
8月14日(月)	報告会準備(東村山市役所)
8月19日(土)	報告会(東大和市「平和市民のつどい」)
8月27日(日)	報告会(東村山市「平和のつどい」)

広島派遣日程

日次	月日(曜)	行程	宿泊地
1	8/5(土)	<p>●集合時間 東大和市駅 8時30分 東村山駅 8時40分</p> <p>8:49 東大和市駅 9:05 東村山駅</p> <p>10:48 品川駅 — のぞみ67号 — 14:42 広島駅 — 15:30 TKP ガーデンシティ PREMIUM 【昼食：車中にてお弁当】 伝承者による被爆体験講話聴講 とうろう作成</p> <p>18:20 夕食 19:15 ホテル</p>	三井ガーデンホテル広島
2	8/6(日)	<p>6:30 ホテル(朝食) — 8:00 広島平和記念公園 — 9:00 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館 — 10:30 広島市役所旧庁舎資料展示室</p> <p>11:20 袋町小学校平和資料館 — 爆心地 — 12:30 原爆ドーム — 原爆の子の像 — 平和の灯 平和資料館見学(記録映像の鑑賞)</p> <p>16:00 広島国際会議場 — 本川小学校平和資料館 — 17:15 夕食 — 19:00 ホテル — 21:00 原爆ドーム — ホテル G7広島サミット 回想展見学 とうろう流し</p>   	
3	8/7(月)	<p>8:30 ホテル(朝食) — 9:00 広島平和記念資料館 — 原爆ドーム — 原爆ドーム前 — 12:18 広島駅 被爆電車(貸し切り)</p> <p>のぞみ24号 16:15 東京駅 — 東大和市駅 【昼食：車中にて折原滋くん弁当】 東村山駅</p> <p>●到着時間 東大和市駅 18時00分頃 東村山駅 17時55分頃</p>	

2

参加者名簿

◆ 市も学年も混合の4つのグループを編成し学習しました。

参加者: 東大和市 10人 (男4人 女6人)

東村山市 10人 (男1人 女9人)

報告会: A・Bグループ 8月19日(土) 東大和市「平和市民のつどい」

C・Dグループ 8月27日(日) 東村山市「平和のつどい」

グループ	名 前	学 校	学 年
A	仙洞田 はつね	東大和市立第一中学校	3年
	上野 瑛凛	東村山市立東村山第三中学校	2年
	木下 愛音	東村山市立野火止小学校	6年
	中村 咲蘭	東村山市立久米川小学校	5年
	廣田 未結	東大和市立第一小学校	5年
B	井上 杏姫	東京都立立川国際中等教育学校	3年
	尾崎 知帆子	東村山市立東村山第三中学校	1年
	桐山 慎二郎	工学院大学附属中学校	1年
	津田 大海	東大和市立第十小学校	6年
	浜口 峻輔	東大和市立第十小学校	5年
C	鈴木 嶺亜	東大和市立第三中学校	3年
	近藤 穂風	東村山市立東村山第一中学校	2年
	伊東 春野	東村山市立東村山第二中学校	1年
	渡辺 陽菜	東大和市立第五小学校	6年
	田村 花音	東大和市立第四小学校	5年
D	安部 俊也	東村山市立東村山第七中学校	3年
	大塚 海緒	東大和市立第一中学校	1年
	加藤 大翔	東大和市立第三中学校	1年
	北原 朋実	東村山市立秋津小学校	6年
	鹿沼 由唯子	東村山市立久米川東小学校	5年

3

地域の戦争・平和学習会

- ◆ 小・中学生たちは、東大和市と東村山市の施設を見学し、自分たちが住んでいる身近な地域でも戦争の被害があったことを学びました。

スケジュール

7月27日（木）

- 午前 | 東村山市「被爆石モニュメント」見学
東村山市「東村山ふるさと歴史館」見学
- 午後 | 東村山市 東村山市在住の被爆者のかたとの座談会

7月28日（金）

- 午前 | 東大和市 戦争体験映像記録DVD「沈黙の証言者」視聴
東大和市「旧日立航空機株式会社変電所」見学
- 午後 | グループワーク「地域の戦争・平和学習について感じたこと・考えたこと」
「被爆者のかたとの座談会で感じたこと・考えたこと」
「広島派遣の目標」

1日目
7/27(木)

被爆石モニュメント見学

地域の戦争・平和学習会の1日目は、東村山市立中央図書館前にある「被爆石モニュメント」を見学することから始まりました。

「被爆石モニュメント」とは、昭和20（1945）年8月6日の原爆投下時に被爆した広島市役所旧庁舎の庭にあった敷石と、同年8月9日に被爆した長崎市立山里小学校の校舎の壁の一部を東村山市が譲り受け、平成元（1989）年9月25日に設置したものです。

長崎市の山里小学校は、爆心地から約600メートルのところであり、原爆の熱線を浴び多くの命が奪われた場所です。戦後、原爆の恐ろしさを訴え続ける貴重な建物の一つとして保存されてきましたが、昭和63（1988）年、建物の老朽化により解体され、東村山市が譲り受けました。

モニュメントの説明を聞いた小・中学生たちは、身近な場所に原爆の痕跡が残されていることを知りました。



東村山ふるさと歴史館見学

東村山ふるさと歴史館で、東村山市の戦時中の様子や市内にあった戦争関連施設について学びました。

小・中学生たちは、東村山地域にも、アメリカ軍のB29が飛来し、照明弾と時限爆弾が投下され、家屋が被災し死者が出たことを教わりました。また、南秋津に墜落し死亡した乗組員のアメリカ兵を追悼するため、昭和35（1960）年に地元市民の手によって建立された「平和観音」のお話を聞きました。

当時の人々の平和を祈念する気持ちに触れ、自分の中の平和について考える機会となりました。

また、軍事施設である「東京陸軍少年通信兵学校」についてのお話を聞きました。通信兵学校とは、全国から受験した15歳から18歳までの少年たちが入校し、モールス信号の送受信や通信機の扱い方について

厳しい訓練を受ける場所でした。卒業生は戦地に赴き、作戦命令や戦況の報告を通信しました。戦地にたどり着く前に、敵からの攻撃を受けて亡くなった人もたくさんいました。

このように、当時の状況をふるさと歴史館の職員から聞き、その後、展示の見学を通じてより見識を深めました。



東村山市在住の被爆者のかたとの座談会

講師: ^{むかい やすゆき}向井保之さん

東村山市在住の被爆者のかたとの座談会を行いました。

昭和8（1933）年、被爆者の向井さんは東京都大森区（現在の東京都大田区）に生まれました。小学5年生のときに日本が太平洋戦争に突入し、空襲によって自宅の一部が破壊されるなどの被害を受けました。その後、長崎の親戚の家に縁故疎開し、1945（昭和20）年8月9日午前11時2分に投下された原子爆弾によって被爆しました。



向井さんは、爆心地の方向から血だらけの人々が列をなして峠を越えて歩いている様子を「生き地獄」と表し、中学の同級生が被爆により亡くなったことを語りました。また、戦時下の食糧不足をしのぐため野草を探して食べていたことや、当時の軍国主義教育についてお話をしてくださいました。

小・中学生たちは資源や食料が無かった戦時下の生活と今の生活を比べ、今がとても幸せであることを改めて感じ、当たり前のように過ごすことができている日常に対して感謝したいと考えるようになりました。

向井さんは報告会準備の日にも応援にかけつけてくださいました。小・中学生たちも、向井さんの登場にとっても喜び、再び質問をしたり和やかな交流が行われました。



2日目
7/28(金)

戦争体験映像記録DVD視聴

地域の戦争・平和学習会の2日目は、東大和市戦争体験映像記録「沈黙の証言者～私たちのまちは戦場だった～」の視聴から始まりました。

東大和市では、戦後70年の節目である平成27（2015）年、平和の大切さを再認識するとともに、戦争を風化させることが無いように、旧日立航空機株式会社に勤務されていたかたの戦争体験談、旧日立航空機株式会社変電所の歴史や現在の姿をまとめた映像記録を制作しました。

小・中学生たちは、当時の様子を想像しながら、貴重な体験談を視聴しました。



旧日立航空機株式会社変電所見学

東大和市の都立東大和南公園内にある「旧日立航空機株式会社変電所」を見学しました。

昭和13（1938）年に建設された軍需工場の変電施設である旧日立航空機株式会社変電所は、昭和20（1945）年の空襲による傷痕が残る施設です。アメリカ軍から1,800発あまりの爆弾による攻撃を受け、工場のほとんどが壊滅した中、変電所だけは残り、戦後も稼働し続けました。平成5（1993）年まで操業を続け、平成7（1995）年に東大和市の文化財に指定されました。

小・中学生たちは、空襲による生々しい被害の痕が残る変電所を見学しました。壁面に残るおびただしい数の機銃掃射や爆弾の痕に、あらためて攻撃のすさまじさを実感しました。

また、東大和市立郷土博物館の職員から、施設周辺の状況や、働いていた方々の被害についても説明を受け、理解を深めました。



グループワークでのまとめ

4つのグループに分かれ、ふせんを使ったグループワークを行いました。「地域の戦争・平和学習について感じたこと・考えたこと」「被爆者のかたとの座談会で感じたこと・考えたこと」「広島派遣の目標」について、各グループの発表を聞き、広島での学習に向け、それぞれの考えをまとめました。



4

広島派遣

1日目
8/5(土)

伝承者による広島被爆者体験講話の聴講

伝承者: ^{くすもとあきお}楠本昭夫さん 被爆者: ^{きりあけちえこ}切明千枝子さん

昭和20(1945)年、当時15歳の切明さんは、広島県立広島第二高等女学校の4年生であり、毎日、学徒動員で工場へ働きに行っていました。8月6日は、勤労働員の休みをもらい、足の治療で病院へ向かっていました。午前8時15分、橋のもとにあった倉庫の軒下で日差しを避け、少し休んでいこうとした瞬間、すさまじい閃光が走り、地面にたたきつけられました。切明さんが気が付いた後、目の当たりにしたのは、全身火傷を負い、誰だか判別できないほどの様子の下級生たちでした。その子たちを介抱したそうですが、亡くなってしまうと、校庭の片隅で火葬したそうです。

このような体験から、切明さんは「戦争できる国に絶対してはいけない」「平和は力を合わせて守らないと逃げていく」という思いを胸に、被爆体験を伝えているとのことでした。

聴講後、グループごとに講話から分かったこと、感じたことを話し合い、発表しました。切明さんの思いを受け取った小・中学生たちは、力を合わせて平和を守るために自分たちに何ができるのかを考えました。

2日目
8/6(日)

平和記念式典（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）

平和記念公園で行われた平和記念式典（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）に参列しました。原爆被害により亡くなられた方々に哀悼の意を込め、恒久平和を願い祈りました。世界各国からの参列者を目にし、小・中学生たちも平和は世界共通の願いであることを改めて感じました。



国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の壁面は、爆心地付近からみた被爆後の街並みを、死没者数約14万人と同数のタイルを用いて表現されており、小・中学生たちは圧倒されています。



また、保存されている原爆死没者の名前と遺影や被爆体験記、証言映像などの資料を見ることで、原爆の残酷さをよりリアルに学ぶことができました。

広島市役所旧庁舎資料展示室

広島市役所旧庁舎資料展示室では、戦前・戦後の庁舎を写真や模型を用いた説明と、旧庁舎の被爆した石段や敷石等を展示しています。



小・中学生たちは、実際に被爆した石段や敷石から原爆の悲惨さを感じ、戦後から復興した広島市の様子や、被爆者救護運動に心血を注いだ当時の市民の様子から、平和の尊さを改めて感じました。

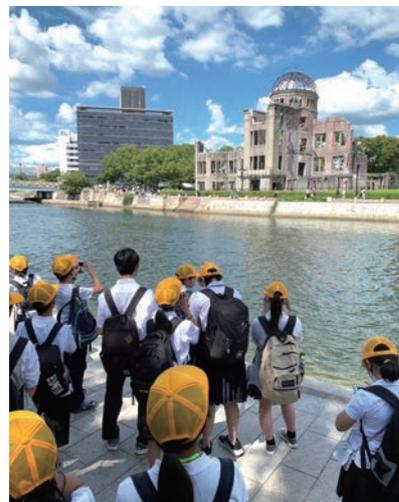
袋町小学校

爆心地から460メートルの距離にある袋町小学校では、疎開していた生徒を除いて大半の人が犠牲になりました。原子爆弾により木造校舎は全て倒壊・全焼し、鉄筋コンクリート3階建ての西校舎は外形のみを残して焼失しました。かろうじて倒壊を免れた西校舎は、原爆投下翌日から救護所となり、階段の壁面には被爆者の消息を知らせる多くの伝言が残されました。小・中学生たちは、今でも残っている伝言を見て、当時の過酷な状況に胸を痛めました。



原爆ドーム

大正4（1915）年に「広島県物産陳列館」として建てられ、戦時中は官公庁等の事務所として使用されていました。爆心地から約160メートルの至近距離であったため、当時建物の中にいた人全員が亡くなりました。平成8（1996）年12月には、核兵器廃絶と人類の平和を求める誓いのシンボルとして世界遺産に登録されました。小・中学生たちは、原爆の「負の遺産」である原爆ドームを見て、その迫力に圧倒されていました。



原爆の子の像

2歳で被爆した佐々木禎子さんは、小学6年生の時に白血病を発症しました。病気を治したいという願いを込めて鶴を折り続け、その数は千羽を超えましたが、8か月の闘病生活の後、12歳で亡くなりました。



禎子さんの友人たちの熱心な思いが世間を動かし、原爆の子の像は建立されました。像には、年間約10トンにもおよぶ1千万羽もの折り鶴が捧げられます。小・中学生たちも、自分たちが折った折り鶴を捧げ、平和を願いました。

平和の灯

台座は、手首を合わせ、手のひらを大空に広げた形を表現しています。水を求めてやまなかった犠牲者を慰め、核兵器廃絶と世界恒久平和を希求するため、建てられました。昭和39（1964）年8月1日に点火されて以来、核兵器が世界中から無くなり、恒久平和が実現するときまで、燃やし続けられると言われています。



G7 広島サミット回想展（広島国際会議場）

令和5（2023）年5月19日から21日まで開催されたG7広島サミットにおいて、各国の首脳が平和記念公園を訪れ、資料館を見学し、被爆者の証言を聴き、慰霊碑へ献花しました。回想展では、各国の首脳が記帳した芳名録や実際に使用された円卓等が展示されています。

小・中学生たちは、広島で開催された歴史的なサミットについて振り返り、「核兵器のない世界」に向けた各国の思いを感じ取っていました。



本川小学校平和資料館

本川小学校平和資料館は、爆心地から至近距離にあった旧本川国民学校の校舎にある平和資料館です。

当時は珍しかった鉄筋コンクリート建ての校舎は骨格を残してほぼ全焼し、校長、教職員10名、児童約400名の尊い命が奪われ、奇跡的に助かったのは教職員1名、児童1名だけでした。小・中学生たちは、被爆後の写真や熱で溶けたガラス瓶等を真剣に見学し、熱線による被害の大きさを目の当たりにしました。



とうろう流し

平和記念公園の脇を流れる元安川で行われたとうろう流しに参加しました。夜、それぞれの平和への思いが記された色とりどりのとうろうが、元安川の水面を彩っていました。小・中学生たちも平和への願いを乗せたとうろうが流れていく様子を見守っていました。



3日目
8/7(月)

広島平和記念資料館

広島平和記念資料館は、原爆投下の瞬間を再現したホワイトパノラマ、被爆者の遺品など、被爆の惨状を示す写真や資料を展示するとともに、広島のみみなどについて紹介しています。建物疎開の作業現場で被爆し亡くなった折免滋さん（当時13歳）が持っていたお弁当箱や、鎌谷伸一ちゃん（当時3歳11か月）が原爆投下の瞬間に乗っていた三輪車等が展示されており、小・中学生たちは、亡くなった子どもたちの遺品を目にし、一瞬にして多くの人たちの命を奪った原爆の恐ろしさを目の当たりにしました。実際に起きたことから目をそらす受け止めて、未来でも笑顔で平和な日常を過ごせるように、二度と戦争が起きないように何ができるかについて、考えることのきっかけにもなりました。



被爆路面電車

広島を走る路面電車は、原爆により壊滅的な被害を受け、全線不通となりましたが、原爆投下からわずか3日後、関係者たちの不撓不屈の努力によって一部区間が復旧し、運転を再開しました。

小・中学生たちは、広島を支えた被爆路面電車に乗り、復興へと歩み出した当時の広島へ思いを馳せました。



5

報告会

- ◆ 本事業は、東大和市と東村山市の共同実施事業のため、報告会は、各市で実施した平和行事の中で行いました。事業を通して勉強し、分かったことや気づいたこと、そこから何を感じ、思ったのかを発表しました。AからDまでの4グループのうち、A、Bグループは東大和市「平和市民のつどい」、C、Dグループは東村山市「平和のつどい」で発表を行いました。

報告会 ①

日時 令和5年8月19日(土) 東大和市「平和市民のつどい」

場所 都立東大和南公園 旧日立航空機株式会社変電所前 平和広場

Aグループ

地域の戦争・平和学習については、旧日立航空機株式会社変電所を見学した感想として、攻撃した米軍兵士の気持ちを考察し、「米軍兵士も命に逆らえなかったのではないかと語りました。また、東村山市在住の被爆者のかたの生々しい体験談を聞いて、戦時中の人々の苦しみや大変さを学び、今ある自分たちの平和な日常に感謝したいと発表しました。

広島派遣に当たっては、「見たり聞いたりして平和のことを知ろう」というスローガンを立てました。広島平和記念資料館では、展示から原爆の悲惨さが伝わり、核兵器は二度と使ってはいけなさと感想を述べました。また、平和の灯の見学について、自分たちが生きている間に、平和の灯が消え、平和になる日が来てほしいと語りました。

〈個人の発表〉

- 広島で戦争体験について勉強してきました。国立広島原爆死没者追悼平和祈念館を見学して、禎子ちゃんという子について調べました。2歳の頃に被爆して、病気になってしまい、毎日鶴を折って生きることを望みただけ、12歳で亡くなりました。戦争によって、まだ生きたいのに亡くなってしまった人たちが大勢いることを知りました。戦争に行った人だけでなく、住んでいた人も大勢亡くなりました。戦争が無ければ幸せな人生を送れた人たちが大勢いたと思います。

ます。だから、戦争なんて起きてはならないと思います。そのために、私は、争いが起きないように、苦しんでいる人や困っている人を助けたいと思います。

- 私が広島派遣に行き感じたことは、戦争の悲惨さです。戦争のことは、小さい頃に絵本などを読んで少し知っていましたが、本当にあったことだと思える気持ちが8割、信じていない気持ちが2割くらいで、あまり実感できていませんでした。しかし、この事業で事前研修に行った頃から、感覚が変わりました。戦争のことが、しっかりと身に染みてわかったのです。本をたくさん読んでもわからなかったことが、広島へ行ったとたんにわかったので、まさに「百聞は一見にしかず」だと感じました。もし、「自分が戦争を体験していたらと考えて」と言われたら、今の自分は考えることができます。家族が戦死したり、友達と遊んだり話すことができないと思うと、辛くて寂しくて怖いです。この事業に参加して、たくさん知ること、考えることができました。最後に、私ができると思うこと、それは、これからも平和について関心を持ち、誰かに戦争の悲惨さを伝えていくことだと思います。

- 私は、今回広島に行き、被爆者の人の話を聞きました。被爆者の話では、戦争で逃げ遅れた

りして大火傷になったらしいです。原爆ドームを見て、爆弾が落ちる前までは普通だった建物が、爆弾で屋根もボロボロになったと知り、戦争は激しかったんだとわかりました。国立広島原爆死没者追悼平和祈念館では、遺影コーナーの12面大型モニターに多くの人の写真と名前があって、こんなに大勢の人が一瞬で亡くなってかわいそうだと思います。何発も爆弾を落とされ、建物も一瞬で破壊されて、何万人も亡くなって、戦争は酷いと思いました。戦争はもう二度と起こってほしくないのに、そんな世界を作らないように、平和な世界にしたいと思いました。

- 私は、広島派遣事業で、戦争の恐ろしさと命の尊さを改めて学びました。広島派遣事業に参加する前、歴史の授業で戦争のことや原爆のことなどを少しは学んでいましたが、イメージができていなくて、悲惨さをあまり理解できていませんでした。しかし、広島派遣を通して、伝承者のかたから話を聞いて、「皮膚が垂れ下がっていたり、体中にガラスが刺さっていた」と聞いて、頭の中で想像ができました。そうすると「戦争、原爆はすごく怖い」と思いました。また、広島平和記念資料館で全身を火傷している人の写真や、死の斑点が出た兵士の写真などがあり、残酷でした。それと同時に、命はとても大切だと思いました。広島派遣を通して、私が

できることは、人に伝えることではないかと思えます。戦争の恐ろしさを体験したわけではないけど、人に伝えて、次の世代に受け継いでいきたいです。そして、もう二度と争いの起きない平和な世界にするための一歩にしていきたいです。

- 私は、平和学習をして、戦争は二度と起きてはいけないことだと改めて思いました。この学習をする前、戦争は教科書や本などの資料でしか知らず、遠い昔にあったことというイメージでした。しかし、実際に見て聞くと、これはフィクションではなく、本当にここで起きた出来事であり、「昔に起きた戦争」と一言で考えてはいけないものだと思います。今、私たちが知るべきことは、平和で過ごせる日常が当たり前ではないということです。原爆が落ちた広島では、木や建物、人でさえ一瞬で焼き払われ地獄のような状況だったということを知りました。平和記念資料館では、とても目を背けたくくなるようなものばかりでした。しかし、それに対する感情を「怖い」というだけで逃げず、現実のことだと受け止めて、しっかり想像し考えることが大切なのではないかと思いました。私たちが未来でも笑顔で平和な日常を過ごせるように、実際に起きたことから目をそらさず受け止めて、二度と戦争が起きないように考えることが、平和に繋がると私は思います。

B グループ

地域の戦争・平和学習については、旧日立航空機株式会社変電所の被害を学び、変電所が戦争の悲惨さを後世に伝えてくれていると思うと語りました。また、被爆者のかたとの座談会では、原爆で負傷した人たちが水を求めて歩く様子や草を食べていた戦時中の話を聞いて、自分たちの日々の暮らしに感謝しながら生活していきたいと発表しました。

また、広島派遣に当たっては、「戦争について、

自分で見て学び、周りに伝える」というスローガンを立てました。袋町小学校平和資料館や広島平和記念資料館を見学した感想として、後遺症や記憶によって長い間苦しんできた方々がいることにも触れ、当時の様子を伝える遺品や建物の保存の重要性を感じたと感想を述べました。

〈個人の発表〉

- 広島で色々と学び、戦争は人の幸せや命、夢を

奪うとても悲しいことだと改めてわかりました。二度と戦争をしてはいけないと思いました。まず、平和のために僕ができる身近なことをしたいと思いました。それは、いじめられている人を助ける、そして、広島に行って見たことや聞いたこと、学んできたことを、家族やクラスの友達に伝えることだと思います。それが、僕にできる平和のための行動です。

- 戦後78年が経ち、被爆者並びに戦争体験者の方々が徐々に減少しています。僕は、これからも戦争について学びを深め、自分が大人になった時に、子どもや周りの人達に伝えられるようにしたいと思います。そのために、普段から勉強を頑張り、本やテレビから知識を深めたいです。今回の広島派遣事業によって学ぶ機会を得られてよかったです。そして、長崎県で被爆した向井さんが話していた、この平和で充実している日常に対する感謝の気持ちを忘れずに大切にしたいです。
- 戦争の映像をテレビで見て、悲痛な声を聞き、今もなお多くの人の命が失われていることを知り、なぜ戦争が無くならないのか、自分の世界から一歩踏み出し、広島を五感で感じてきました。被爆者のかたの体験や平和への思いについて、受け継がれた被爆体験伝承者のかたから、胸の奥底から熱く込み上げてくるような話を聞きました。私たちの何気ない当たり前の生活に感謝をすること、「平和は座っていればやってくるものではない。力を合わせて守り、手繰り寄せて掴み取っていかないと逃げていく」と大切に話してくださり、言葉の重みを感じました。広島平和記念資料館では、当時の様子を目の当たりにし、人々の平和への願いや戦争の悲惨さをしっかりと胸に焼き付けました。世の中の平和の解釈が異なっていてはいけないと思います。この世界で生きて背負っていく私たちが、真の平和の意味を考え、今回学んだ命の尊さや大切

さを心に刻み、強い思いで平和を守り、未来をつくる努力を続けたいと思います。

- 私が考える平和は、全ての人種が尊重され、全ての人々が今にも未来にも希望が持てる世界です。誰かが「助けて」と言えば、助けてあげられる世界です。私が平和のためにできることは少ないけど、戦争の被害と加害を知ることが平和をつくる第一歩になると、戦争が何かを知る中で感じました。被爆者のかたの話聞いて、国民全員が戦争に総動員され、戦争の影響を受けたのだと感じました。戦争を始めた人は、戦争の恐怖、それを感じることはありません。戦争で死ぬことがない人が戦争を始め、そのせいで何千万人も人の命が理不尽に奪われました。もう誰も、こんな風に命が奪われ、心に傷を負い、後遺症に苦しむ人をつくってはならない。私が平和のためにできることは、すごく少ないけど、戦争、被害と加害、その悲惨さ、権力の暴走、「何でこうなったんだろう？」という気持ちを持ち続け、知る努力を続け、8月6日に広島に行ったひとりとして伝えていきたいです。
- 僕が考える身近にできる平和とは、2つあります。1つ目は、友達や周りの人と仲良くすることだと思います。喧嘩をしない、親などに言われたことは素直に聞く、暴言を吐かないことが大事です。喧嘩をすることも一種の戦争だと思うし、言うことを聞かないと、どちらも嫌な気持ちになると思うからです。2つ目は、物を大切にすることです。イライラしても物には当たらない、置き場所を決めてきちんと片付けるなどです。周りの人と仲良くしていても、物を大切にしないと、だんだん人のことも大切にできなくなると思うからです。平和とは、戦争をしないことだけじゃなく、相手のことを考え大切にすることです。これからは、その意識を持って生活していこうと思います。

C グループ

地域の戦争・平和学習については、ふるさと歴史館での学習で、平和観音に込めた米軍兵士への追悼の想いに感動したことや、慰問袋や軍事郵便の展示を見て、戦時中の家族の絆を感じたと発表しました。また、被爆者のかたとの座談会では、悲惨な体験談を聞き、今の暮らしと身近な人への感謝を大切にしていこうと思ったと感想を述べました。

広島派遣に当たっては、「百聞は一見にしかず」というスローガンを立てました。広島平和記念資料館では、一発の原子爆弾が無差別に多くの命を奪い、生き残った人の人生も変えてしまったことを学んだと報告しました。また、犠牲者の追悼と被害者の支援を願った平和記念式典へ国内外から多くの人に参加しており、子ども代表の「原爆」と「平和」の発表や広島市長が言っていた「人に夢や希望を持たせる」という言葉に感動したと語りました。

〈個人の発表〉

■私は、この事業を通じて、戦争と核兵器の恐ろしさと、それらが与えた人々の苦しみを深く知ることができました。今、私がすべきことは、今回学んだ戦争の怖さや平和とは何なのかななどを周りにたくさん発信し、「二度と戦争をしてはいけない」「核兵器を使ってはならない」とより多くの人に感じてもらうことだと思いました。そして、被爆者のかたとの座談会では、毎日朝起きてご飯を食べられることや学校で勉強ができること、家族や友達と笑って過ごせることなど、今では当たり前前にできることにもっと感謝するべきだと感じました。また、被爆者体験講話では、「平和は力を合わせて守らないと逃げていきます」という言葉が、一番心に残りました。私は、この言葉のメッセージは、一人だけ平和を目標に行動しても平和は来ないので、全員が平和という目標を持ち、

力を合わせるべきだと思いました。だから私は、今後、積極的にボランティアや募金活動に参加し、たくさんの人を助けたいと思いました。また、たくさん勉強をして、人の役に立てる、人を救える仕事に就けるように頑張りたいです。

■今回、この事業に参加して学んだことは、原爆の怖さです。まず、被爆体験者の切明千枝子さんの話は、自分の中で場面を想像しながら聞いていたので、原爆の恐ろしさを知り、とても怖かったです。平和記念式典への参列や、平和記念資料館や原爆ドーム、原爆の子の像などを見学し、多くの人々や建物が一つの爆弾で一瞬にして破壊され、たくさんの命や笑顔を亡くした爆弾は二度と使わないでほしい、また、核兵器の怖さを知り、今がどれだけ平和で幸せかを実感しました。戦争や原子爆弾でたくさんの人が亡くなり、家族を失った子どももたくさんいました。食べる物も住む家もなく、大変な時代があったからこそ、今の平和があると思います。もしあの時、原子爆弾が落とされても戦争が続いていたら、広島や長崎以外にも原子爆弾が落とされていたかもしれない、もっとたくさんの命が失われたかもしれない。自分と同じ年の子どもが戦争に行っていたかもしれない。だから、二度と戦争はしてはいけないと思います。私は、食べ物を粗末にしない、争いをしない、友達や家族を大事にする、命を大切にする、8月6日あの日に広島で起こった事を決して忘れない。それが私にできる平和です。

■私は、広島にある袋町小学校の資料館に行きました。そこは、爆心地から約460メートルの所にありました。生徒と教師合わせて約160名、ほとんどのかたが亡くなりました。資料館では、当時

書かれた生徒を探す親や助かった生徒の伝言が表現されていました。私は、罪のない多くの子どもたちの命が「原爆」によって奪われたことに、強く衝撃を受けました。また、私は、原爆の子の像を見ました。それは、原爆で亡くなった女の子「佐々木禎子さん」をモデルにして、禎子さんの友達が作ったそうです。原爆は、戦争が終わった後でも、被爆者のかたの命を奪い、心を傷つけ続けるのだと実感しました。今、私は、優しい家族と安心した生活を送っています。私は、精一杯勉強をして、世界の人々と核のない地球をつくっていきたくです。

- 私は、この学習を通して、戦争の悲惨さや怖さを知りました。決して同じことを繰り返さないために、次の世代や友人などに伝えたいです。そして、平和を願う気持ちを持ち続けたいです。広島市長の平和宣言の中にあつた「平和文化」という言葉が印象に残っています。私達が日常生活の中で、国籍や宗教、性別を越えて感動を分かち合える音楽や美術、スポーツなどを通して、「夢や希望がある」といった気持ちになれる社会にすることが大切だという話でした。私も、人に夢や希望を与えられる人間になり、世界をもっと平和にしたいと思いました。

D グループ

地域の戦争・平和学習については、被爆石モニュメントを見て、色の濃い石は長崎県、色の薄い石は広島県から譲り受けたものだと知り、原爆の被害に思いを巡らせたと報告しました。また、被爆者のかたとの座談会では、被爆者が受けた差別や現代の平和が当たり前ではないという話を聞き、実際に被爆を経験した人から話を聞いて良かったと感想を述べました。

広島派遣に当たっては、「平和とはなんなのか考える」というスローガンを立てました。原爆の子の像を見て、生き残っても原爆の後遺症の怖さがあるのは辛いと思うと語りました。また、平和記念式典について

- 私は、この広島派遣事業を通して、戦争の悲惨さや平和とはどんなもので、どれほど大切なのかを学びました。私は実際に広島に行き、被爆者のかたは生き残っても心の傷が癒えないが、後世に伝え続けるために、忘れたくても忘れてはならない被爆の様子や建造物を残しているのだと学びました。私の曾祖父を含めた兄弟は、出征し、一人だけ帰ってきませんでした。曾祖母の家には、遺影が飾ってあります。普通に朝起きて、学校に行つて帰つてきて、友達と遊んだり、勉強したり、家族で美味しい物を食べたりして、普通に寝る、という当たり前前の日常が平和だと、私は思いました。「皆で力を合わせて平和を手繰り寄せ掴み取つて守らないと、平和はすぐどこかへ逃げてしまします」と、伝承者のかたがお話しされていました。一人が平和のために行動しても、実現は困難だと思いました。皆が相手のことを思いやったり、選挙などの政治に参加したりすることが、平和への実現に繋がるのではないのでしょうか。今、起こっているウクライナとロシアの戦争は、いつまで続くのだろうかと考えます。世界の人々が、戦争の悲惨さと平和を学んで理解し、平和や皆の幸せに向かって、身近なことから一歩ずつ近づいていきたいと思ひます。

は、子ども代表の「誰もが平和だと思える未来を、広島に生きる私たちがつくっていきます」という言葉が心に残つたと報告しました。

〈個人の発表〉

- 私は、向井さんとの座談会に参加して、平和とは当たり前ではなく感謝すること、そして平和とは何か考えることが大切だと知りました。そのことを踏まえて、私たちが平和のためにできることは何でしょう。それは、戦争の危険性を後世に語り継ぐことだと思います。今の世界はもう、原爆の怖さを知る

人が多くありません。そして今、ウクライナでは、ロシアによる卑劣な侵攻が行われています。これは、核爆弾や戦争の怖さを忘れていたからできることです。私は、この広島派遣で、そのことがよくわかりました。今後は広島派遣で学んだことを活かして、戦争の怖さを伝えていきたいです。最後に、私は、今回の広島派遣を通して、戦争の怖さ、平和の大切さをよく学びました。そして、戦争の怖さを忘れず、人から人へ繋いでいくことで、いつか戦争を無くし、平和に繋がってほしいと思いました。

- 地域の戦争・平和学習では、東村山ふるさと歴史館に行き、私の住む東村山市でも戦争をしていたことを知りました。戦争はどこか自分とは関係ないことだと思っていましたが、長崎で被爆体験をした人が東村山市に住んでいて、その人の話を聞いたこと、モールス信号を子どもが習っていたことなどを知って、身近に存在することだと知りました。広島派遣では、広島平和記念資料館が印象に残りました。特に、真っ黒なお弁当が心に残っています。食べるのを楽しみにしていたのに食べられなかったと思うと、悲しく思いました。それ以外にも、怖い展示がたくさんあって、「なぜこんなにも恐ろしい物を展示するのだろう」と怖かったのですが、恐ろしいことこそ、繰り返さないために、伝えていかなくてはならないからだとわかりました。この事業を通して、戦争はしてはいけない、核は持ってはいけないと強く思いました。そのためには、私もこれから核の恐ろしさを伝えていって、世界から無くさなくてはならないと思いました。
- 私は、戦争について思ったことが2つあります。1つ目は、広島平和記念式典の子ども代表の言葉です。「子どもの名前を呼びながら『目を開けて、目を開けて』と叫び続ける母親」という所が心に残っています。戦争に関係ない子どもまで巻き込んでいることが伝わって、戦争は何かあってもやってはいけないと思いました。2つ目は、動物園の動物についてです。戦争が始まり、動物にあげるエサがなくな

って、戦争に関係ない動物が餓死や毒餌で殺されてしまったことを知り、私は、戦争をする人間より戦争をしない動物の方が大切だと思いました。私は、関係のない子どもや動物が巻き込まれる戦争を皆に知ってもらい、無くしたいと思いました。

- 私は、広島派遣で印象に残ったことがあります。それは、1日目の切明千枝子さんの話を伝承する楠本昭夫さんの話です。中でも、千枝子さんの「戦争ができる国に絶対してはいけない。平和はとても大切なものだけど、逃げていってしまう」という言葉が印象に残りました。私が平和にするためにできることは2つあります。1つ目は、相手の気持ちを考えて行動することです。相手の気持ちを考えれば、戦争なんて起こらないと思います。2つ目は、周りの人に原爆や戦争などの恐ろしさを伝えていくことです。皆が戦争や原爆の恐ろしさについて知れば、戦争しようとする人は少なくなると思います。私は、この2つを実践して、平和を実現していきたいです。
- 僕は、広島派遣事業を通して感じたことが4つあります。1つ目は、被爆石モニュメントについてです。この被爆石は、爆心地から近いところにあっただのにもかかわらず、ほぼ当時の形を残していたところから、僕には悲惨さが伝わってきました。2つ目は、座談会についてです。6年生の歴史の授業では、戦争を経験した人のビデオは見られたものの、質問ができず、疑問が残ったまま授業が終わってしまいました。しかし、今回実際に被爆者のかたに聞くことができ、6年生の時の疑問を晴らすことができました。3つ目は、原爆ドームについてです。原爆の被害にあっただのにもかかわらず、骨組みだけでも残っているのを見て、改めて平和の大切さがわかりました。最後に、滋くん弁当についてです。戦時中の食べ物は限られていて、満腹になれない人たちを想像して悲しくなりました。このことから、戦争は起きてはならないことだと改めてわかりました。平和とは何なのかを考える上で、この広島派遣事業はなくてはならない大切な事業だと感じました。

A グループ

平和学習をして

仙洞田 はつね

私はこの広島派遣事業で、一生できないような貴重な体験をさせていただきました。そしてこの学習を通して、戦争は二度とおきてはいけないことだと強く思いました。

この学習をする前、戦争は教科書や本などでしか知らず遠い昔にあったことというイメージでした。ですが様々な体験や学習、実際に見て聞くと心構えが変わったことがたくさんありました。

地域の戦争について東村山ふるさと歴史館で学んだことの中で、いつも私たちが利用している身近な所にも戦争の影響を受けていたことが印象に残りました。例えば、東村山市にある中央公園は横長い敷地です。実はそれには理由があり戦時中、自動車の試験場として使われていたためだったのです。他にも東村山市にある八坂駅は軍からの要請によってできた駅や、逆に西武線は観光のために使われていたため運行中止となり線路をはがし、そして鉄などは武器を作るために再利用されていました。

このように私たちが住む町のとても身近な所が、戦時の物や建物でなくても戦争につながっていることを知りました。戦争＝よくわからないこと、昔のことではなく、住んでいる環境にも実は戦争と関わりがありました。常に学ぶ意識で周りに目を向けることで新たな発見につながるとわかりました。

地域の戦争について学び、事前学習を終えて広島へ行きました。着いてすぐに思ったことは見渡すかぎりの高いビルや行きかう人を見て、原爆が投下されまっさらな状態だった広島が信じられませんでした。ですがところどころに原爆ドームのような被爆した建物が、栄えた都市にぽつんと建ち異様な雰囲気を感じました。そして広島について知っていくたびに、原爆投下後にもなくなった広島が次々と復興していたことへの驚

きと、当時の人たちの一言では表せない苦勞が伝わってくるようでした。

現地では平和の灯というのを見ました。平和の灯と聞き、私は平和だから灯っているのだと思っていました。ですがこの灯は、世界中から核兵器がなくなり平和になるまで燃え続け、平和な世界になるとこの灯は消えることを知りました。私たちが生きている間に灯が消えてもいいくらい平和な世界になり、その瞬間を見たいなと思いました。そのために他人事ではなく自分でできることを実行していこうと思います。

最終日に行った広島平和記念資料館では、原爆によって一瞬で町が消えていく様子がわかりました。そして血が付着している服に原爆投下後の人々の姿、放射線の後遺症に苦しむ人の写真、他にも原爆の恐ろしさが伝わってくるものがたくさんありました。私たちが今見られるのはシロクロの写真です。でも当時の人々にとっては目の前で起きた出来事、自分におきたことです。実際にあったことだと信じたくない、怖い、と目を背けたくくなりました。ですがその感情だけで逃げず、現実のことだと受け止めてしっかり考えないといけないと思いました。核兵器は二度と使ってはいけないことだと心から伝えられるようになりたいです。

この平和学習を通して、戦争は多くの人を苦しませ、一生消えない傷を負うことがわかりました。二度と戦争がおきないように声を上げて、行動していける人になりたいです。



広島派遣事業で私が学んだこと

上野 瑛凛

私は、広島派遣事業で、命の尊さと、戦争の恐ろしさをあらためて学ぶことができました。

広島派遣事業に参加する前、歴史の授業で原爆や戦争のことを少しは知っていましたが、「そんなことがあったんだ。」くらいにしか思わなくて、悲惨さをあまり理解できていませんでした。ですが、広島派遣をとおして被爆体験講話の聴講や原爆の子の像、平和記念公園など、他にも様々な所へ行き、見たり聞いたりして、戦争のことを沢山知ることができました。その中で特に心に残ったことが3つあります。

1つ目は、広島被爆者体験講話の聴講です。なぜかという、講話の内容もそうですが、被爆者の切明千枝子さんが言っていた「平和は力を合わせて守らないと逃げていきます。」という言葉が心に残っているからです。この言葉を聞いて私は、自分一人だけが平和を願っても今行われているウクライナ、ロシアの戦争が終わるわけではないですが、全世界の人々が戦争を終わらせようと思えば行動すればもしかしたら戦争が終わるのかもしれないと思いました。

2つ目は、平和記念式典の黙とうの時間です。黙とう以外にも心に残っていることがたくさんありますが、黙とうの時間が一番心に残っています。なぜかという、「黙とうを願います。」とアナウンスが出た瞬間、人が満員くらいいたはずなのに、1人になったかのようにシーンと静まり返りました。それと同時に、この場にいる全員が平和を願っているのだと肌で感じました。そのことが私にはすごく心に残っています。

3つ目は、広島平和記念資料館での写真や絵、遺品です。一番心に残っている写真は亡くなってしまった人の骸骨の写真です。この写真を見た瞬間これは本当に起こった出来事なのかと目を疑い

ました。ですが、ずっと見ているとこれは本当にあった出来事だと思ったと同時に絶対に戦争を起こしてはいけないと思いました。あと心に残っているのは、皮膚が垂れ下がっている人の絵です。理由は皮膚が垂れ下がっている人がいるというのをこの事業で初めて知り、絵を見てすごく残酷だったので心に残っています。遺品で心に残っているのは黒こげになったお弁当です。そのお弁当は「しげる君弁当」と呼ばれていて、戦時中しげる君という少年が居て、その子は疎開し広島に行き、自分で作物を育ててその作物で作ったお弁当をお昼に食べる予定でしたが、原爆が降ってきて、お弁当を食べることができず、亡くなってしまったというお弁当です。その話を聞いた時、原爆は「待って。」と言っても、待ってこないのだと思いました。なので、今を生きたくても生きることができなかった人の分まで一生懸命生きたいです。

私は広島派遣事業で心に残った3つのこと以外にも命はすごく尊く、大切なもので、戦争は絶対にしてはいけないと気付かされた場面がたくさんありました。この広島派遣で戦争のことを沢山知り、学ぶことができました。この貴重な体験を決して忘れず後世に受け継いでいきたいです。本当にありがとうございました。



広島派遣事業に参加して

木下 愛音

広島派遣事業では、戦争の怖さ、平和とは何なのか、などたくさんのことを学びました。戦争で亡くなった人が大勢いて、原爆をはじめとする核兵器は、危ないものだとわかりました。広島平和記念資料館や、被爆者講話を聞いていろんな写真を見たことで、戦争では、どこも火事になったり貧しい暮らしで食べものがなくて餓死したり、大勢の人が亡くなって、一人ぼっちになってしまった人もいて、とても大変で生き地獄の様なものだったことが写真を見てわかりました。実際に、資料を見たり体験を聞いたあとに写真を見ると、本当に私が戦争を体験している様な気持ちになりました。

私が心に残ったのは2つあって、1つ目が国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の遺影コーナーという部屋にある12面大型モニターでたくさんの方の写真と名前が画面に映っていたことです。こんな大勢の人が亡くなったのだと衝撃を受けました。2つ目は、広島平和記念資料館で、8月6日の惨状の光景を見たことです。血がついている服や、破れている服などがあり、また小さい子どもの服もありました。こんなにも小さい子や赤ちゃんも戦争に巻きこまれて酷いなと思いました。黒い雨を飲んでいる女の、放射線を浴びて、何日か経ってから髪が抜けた姉と弟や、死の斑点がある人、原爆による火傷で皮膚が垂れ下がっている写真、また腕から皮膚が垂れ下がって爪で止まっている写真など様々な写真がありました。こんなことはもう起きてはいけないと思いました。

原爆が落とされたことによって、今まで普通に暮らしてきた人たちの毎日が一瞬にして変わってしまいました。急に「ピカッ」と光った瞬間に一瞬で焼け野原になって、建物もなくなり、どこもかしこも破壊されてしまいました。怖いなと思い

ました。戦時中の暮らしは、こんなに大変なのに戦争を体験して生きている被爆者のかたは、とても凄いなと思いました。

今、日本は戦争がなく平和です。だけど「幸せじゃない」とか言っている人もいます。この戦争のない平和な日本で、本当は生きているだけで幸せだということに気づきました。そして私は一秒一秒を大切にしようと思いました。戦争は、自由を奪い人の命を奪い、人を傷つけます。

広島派遣事業をとおして、もう戦争なんて起こらない平和な世界が続くような未来を作りたいです。



この事業に参加して思ったこと

中村 咲蘭

私は今まで、戦争について本で読んだり聞いたりしていても実感できず、遠いことのように思っていました。

私が広島派遣に応募した理由は、国語の教科書で少女が広島原爆について知っていく「たずねびと」という物語を読んで、78年前広島で何があったのか、戦時中は、どのような状況だったのか資料などを自分の目で見たい！知りたい！と思い、応募しました。

地域の戦争・平和学習会ではコンクリートが貫通している壁を見たり、たった3回の空襲で、111名のかたが亡くなったことなど、空襲の恐ろしさを知りました。

戦地に送る手紙は、慰問袋という袋に入れて送っていたそうです。慰問袋に入れた、思いを書いた手紙も、審査に通らなければ手紙が届かないと知り、戦時中は自分の思いを伝えることも出来ないなんて、とても苦しいなと思いました。

そして、広島で、強く印象に残った場所が3つあります。

1つ目は、爆心地です。78年前、その場所の高度約600mで、原子爆弾は炸裂しました。その中心温度は約3000～4000℃とのことでした。そんな温度は、私には全く想像のつかない温度で、とても驚きました。爆心地は、病院でたくさんの方が居たのですが、その人たちは、即死でした。病气やケガで病院に来ていた人たちが、そんな温度で亡くなったと思うと、胸が苦しくなりました。

2つ目は、国立広島原爆死没者追悼平和記念館です。モニターに原爆で亡くなった人の遺影と、名前が映し出されます。赤ちゃんや子ども、自分と同年の子もたくさん居ました。しばらく見ても次々と映し出される人々、全員がたった1発の原爆で亡くなっているのは、本当に驚きまし

た。最近亡くなってしまった被爆者のかたも居ました。赤ちゃんを抱え、笑顔になっている人。緊張して顔がこぼれている女の子。その人たちがみんな亡くなったと思うと、見ながら涙が出してきました。

3つ目は、平和の灯です。水を求めてやまなかった犠牲者を慰め、核兵器廃絶と、世界恒久平和への願いを込め、1964年に点火されて以来、ずっと燃え続けているそうです。雨の日も風の日も台風でも、今まで1度も消えたことがないそうです。この火が消えるのは、全世界から核兵器がなくなった時だそうです。その灯を見ながらこの火が1日でも早く消えて欲しいと思いました。

この事業に参加して、原爆は、1発でたくさんの方の命を奪い、生き残った人の人生を一瞬で変えてしまう、とても恐ろしく、ひどいものということがわかりました。そのような核爆弾が、まだ世界にあり、いつか使われてしまうのかも知れないと思うと、恐ろしく、恐怖を感じます。核爆弾も戦争もない世界が来て欲しいです。この事業で原爆や戦争について、今まで知らなかったことを学習できました。自分が出来ることは、周りの人に伝えていくことだと思います。今年の自由研究にして、クラスの友達に伝えたいです。そして、戦争はとても怖いことですが、今回学んだことを忘れないようにして、自分に何が出来るか考え、行動していきたいです。



広島派遣事業に行って思ったこと

廣田 未結

私は広島での派遣事業に行って、知り、分かったことが大きく分けて4つあります。

1つ目は、被爆されたかたのお話です。被爆者のかたが話されていたのは、戦争が始まる前は、食べる物が当たり前がありました。戦争が始まった後は、食べる物がなくなってつらい生活が始まりました。中学生になった後は、工場で働く毎日だったということを知りました。私は、お話を聞いて、感じたことがあります。それは、小さい時から怖い思いをしていた人たちが、戦争が終わった後、平和な生活を送れているといいなと感じました。

2つ目は、原爆ドームについてです。なぜなら、戦争前と戦争後では形が全然ちがうからです。戦争が始まる前は、お城のような形できれいでした。しかし戦争が始まった後、かべのコンクリートやレンガが壊されて危ない状態でした。広島市では、戦争のことを知ってほしくて、元の形を残しながら、危ない状態ではないようにしました。原爆ドームは、怖さやつらさ、悲しみを知ってほしかったという気持ちが入っているんだろうなと思いました。だからこそ、原爆ドームを残したんだろうなと思いました。

3つ目は、小学校についてです。なぜなら、現在の学校は、勉強するところです。しかし、戦争中の学校では避難所として集まっていたことを知りました。そこで学校に行って伝言を見て、生きているかを確認していたことを知りました。私は学校に伝言が残っていないと聞くと、とても不安で悲しかったんだろうなと感じます。もし避難所が壊れてしまっていたら、危なくて怖いなと思います。

4つ目は、原爆の子の像です。その像は、女の子がおりづるを持っている像です。この像の意図

は平和になってほしいという意味があると知りました。横の女の子と男の子は、明るい希望を象徴していることを知りました。私は、原爆の子の像が台風などで壊れてほしくないと思いました。今の平和が今後も続くことを願っています。



B グループ

私たちに委ねられた平和

井上 杏姫

戦後の日本は平和国家として発展し、今私たちは平和で何不自由なく笑い、遊び、学び、平和の中に暮らしている。

しかし、ひとたび戦争が勃発すると、この普通の生活は破壊され、尊い命が奪われてしまう。必死に逃げ命を守る生活に激変してしまう。

78年前の8月6日午前8時15分、広島で原子爆弾という恐ろしい破壊力をもった核兵器が人々の命を奪った。ピカッと光った瞬間に物や命が奪われた。生き残った人々も、被爆後遺症に何年も苦しんでいる。原子爆弾の恐ろしい破壊力、破壊された広島の惨状、放射能による健康被害を広島平和記念資料館で見学し、戦争の愚かさや核の恐怖を怒りの感情を抱き学び記憶した。また、被爆伝承者のかたの話を実際に聞くことで、戦争がもたらす破壊、核、原爆がもたらす惨状、二次被爆や原爆後遺症による苦しみは今も続いているのかと思うと涙が溢れ深い悲しみを感じた。戦争は、町が破壊され、尊い命が奪われ私たちが平和に暮らす普通の生活が奪われる。

私は広島派遣から戻って、戦時中に起こった出来事を調べてみた。私たちの住む東京でも大空襲があり、多くの命が奪われていた事実を知った。アメリカ軍による空襲は、広島・長崎の原爆投下以前から東京でも都市部に大きな被害を与えていた。戦後の日本は平和国家として発展し今、私たちは平和に暮らしていることに感謝したい。戦後78年の間に幸い日本では戦争は起きなかった。一方、世界に目を向けると、朝鮮戦争やベトナム戦争などがあった。中東の紛争は今も続いている。そして、ロシアによるウクライナ攻撃によってウクライナの都市が破壊され、人々が泣き、死んで

いる様子をテレビで見る機会は無くなっていない。ウクライナの人々も、つい2年前までは私たちと同じように平和に暮らしていたに違いない。戦争の愚かさをあらためて実感する。

ヒロシマは、世界でも平和の象徴都市として有名だ。私たちは、広島平和記念式典に派遣され、世界に向けて平和へのメッセージを発信した。『核兵器のない世界、戦争のない平和な世界』を願って。

私は、平和の尊さや大切さを心に刻み、戦争と核兵器のない、平和な暮らしを守る思いを強く持ち続けたいと思う。今年の平和式典には過去最多の111ヶ国の人々が参加されたと聞く。世界の人々とともに平和を守り、紛争のない世界を生きていきたい。これからの日本、そして世界の平和は私たち若い世代に委ねられる。

語り部のかたの言葉を決して忘れない。「平和は座っていればやってくるものではない。力を合わせて守り、手繰り寄せ掴み取っていかないと逃げていきます。この苦痛は私たちだけで…。」



平和って何だろう

尾崎 知帆子

この事業でさまざまなことを学びました。一緒に学ぶ仲間
に恵まれ、同行してくれたスタッフさんにも、恵まれました。
この事業に参加できたことに感謝します。

一番印象に残ったのは、袋町小学校です。袋町小学校は爆
心地から460mの位置にある小学校で、原爆によって大きな
被害を受けました。当時、多くの児童は疎開により被災を免
れましたが、残っていた児童のほとんどが一瞬にして命を奪
われました。木造校舎は全て倒壊・全焼し、唯一コンクリー
ト造りだった西校舎だけが外郭のみ原形をとどめました。

被爆直後から被災者の救護所として利用された西校舎の壁
面には、家族の消息などを知らせる「伝言」が数多く記され、
現在でも残っています。爆心地付近の表面温度は約4000℃。
鉄が蒸発する温度は約2880℃。親や親戚が探していた子ど
もたちの多くが未だに骨さえ見つかっていません。ショック
でした。悲しくなりました。

私たちは、平和祈念式典にも参加しました。内閣総理大臣
などが、あいさつをしたなかで、「核抑止論」の危険性を指
摘した広島市長の平和宣言が心に残りました。

広島市長は、核兵器を防衛目的に役立てる「核抑止論」か
らの脱却を訴え、日本が核兵器禁止条約の締約国になるよう
求めました。

平和学習をする意味は何だと思いますか。私は、同じ過ち
を繰り返さないためだと思います。歴史を学んで「そうなん
だ」で終わってしまっただけでは、意味がない。その歴史を二度と
繰り返さないためには歴史を深く学ぶ必要があります。「何
でこうなったんだろう」という気持ちが、とても大事だと感
じています。

戦争は権力の暴走によって起きます。過去を変えることは
出来ないけれど、その歴史を今、社会のために、世界のため
に、活かさないのは、戦争によって殺された人、心身を深く
傷つけられた人、勇気を持って、自分の体験を語っている人、
語ってくれた人に対する侮辱に繋がるのではないのでしょうか。
無関心や無知も、権力の暴走によって、人生をめちゃく
ちゃにされた人々の命や尊厳を踏みしめることに加担してし

まうと思います。

戦争には加害と被害があります。この事業で原爆が非人道的
な兵器であると改めて感じました。原爆の恐ろしさ、悲惨
さは世界に訴え続けなければならないことです。同時に、日
本が犯した凄惨な加害行為を日本は認めて、向き合っほし
い。

歴史を勉強していてモヤモヤすることがありました。「戦
争」は私にどのような関係があるのか、私に責任はあるのか。
そんな時、オーストラリアの歴史学者、テッサ・モーリス
＝スズキさんが提唱する「連累」という概念に出会いました。
現代人は過去の過ちに直接的な責任はないけれど、植民地支
配などによる「差別と排除の構造」が社会に残っている限り、
歴史を風化させずに、その「構造」を壊していく責任がある
という意味です。過去の不正義が正されない社会に生きてい
る限りは、過去の歴史と自分は無関係ではないのです。

広島は、見たこともないほどの大都会で、ここに原爆が落
ちたことを想像できませんでした。ガイドの土屋さんのお話
から、「めっちゃ」という言葉は、広島では、「ぶち」という
ことを知りました。原爆が落ちる前も、落ちた時も、落ちた
後も、ここで人が暮らしていたという当たり前のことを実感
しました。切明千枝子さんの被爆体験を伝承しているかたの
話も同様です。言葉で言い表せないほどの惨状を、目の前に
いる人が話してくれることで、現実のことだと思えました。

皆さんは、平和とは何だと思いますか。私が考える平和は、
全ての人が生きやすい社会、全ての人の人権が尊重される世
界です。私が平和のために出来ることは少ないけれど、
戦争の被害と加害を知ることが、平和をつくる第一歩
です。



広島派遣事業を終えて

桐山 慎二郎

2泊3日の広島派遣事業に応募して良かったです。

僕は、戦争が自分には関係なくそこまで重要には考えていませんでした。ですが去年からウクライナ侵略がはじまり、戦争が思ったより近くにあるものだと感じ、恐ろしいと思います。

そこに今回、広島派遣事業に行けることになりうれしかったです。まず事前学習として向井さんにお話を聞きに行きました。向井さんは、長崎県で被爆していて当時中学生でしたが、中学校に行っても勉強ができなくて、畑で仕事を手伝っていたそうです。今は学校に行けば、勉強ができて友達と笑えることが昔では当たり前ではなかったのだなと思いました。

そして8月6日平和記念式典に多くの人々が参加しておどろきました。なぜかというと思っていて人数の倍以上いたことと、外国の人が多かったからです。今回の参加国が過去最多でなんと111か国もの人々が参加していたそうです。これだけの人たちが参加した理由に、ウクライナ侵略が関わっていると思います。広島は戦争について考えるのにはいい環境だからです。世界遺産にも認められている原爆ドームがあることや戦争の悲さんさを伝える広島平和記念資料館などがあるからです。

僕が広島平和記念資料館に行って学んだことは3つあります。1つ目は、広島に落とされた原子爆弾「リトルボーイ」の中にあるウランの核分裂反応がおこったのが全体の約100分の1というしょうげきのな事実です。もしすべてのウランが反応してしまっていたら広島の被害の約100倍のい力があるので、日本が機能しなくなっていたかもしれないということを思うと恐ろしいです。

2つ目は、僕ぐらいの子どもからおじいちゃん

おばあちゃんまで働いて戦争に貢献しようとしていたことです。そしてぜいたくは敵だという言葉があったことにおどろきました。戦争の資源になるからと小学校低学年がドラッグを拾い、それを石油などの代わりにしていたそうです。日本は資源が多いわけではなく、大国相手に戦争をするのは無謀だったのではないかなと考えますが、1つ前の戦争で勝っていたことも関係があるのかなと思いました。

3つ目は、原爆の熱線により全身やけどとなり熱いからといって水を飲んでしまうと、内臓などの器官もやけどしてしまっているの、ショック症状で死んでしまう人が多かったそうです。そのため、平和記念公園には水が豊富だという理由を知り感動しました。

最後に、2泊3日でスマホがない状態での生活はつらいと思っていましたが、広島は学ぶことができ、そして友達がいてとても楽しく学ぶことができました。一生平和の大切さについて忘れないようにしたいと思います。



今があることに感謝

津田 大海

僕は、一年生の時に読んだ本「ひろしまのピカ」の恐ろしさが忘れられません。それで今回、もっと詳しく知りたいと思い、「地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業」に参加し、東大和市、東村山市の戦争、広島や長崎の原爆について、多くのことを学びました。その中でも興味深かったものを4つ書きます。

まず1つ目は、7月27日、28日の事前学習の中で学んだ、東村山市在住の向井保之さんの話です。向井さんは長崎県で被爆し、幸い無事だったそうですが、全身が焼け皮膚がただれた人たちが峠から降りてきたり、死んでいる人を燃やして運んでいるのを見たり、仲の良かった友達まで亡くなったそうです。大切な友達を失うなんて聞いているだけで胸が苦しくなり、涙が出そうになりました。生活は、道端に生えている草などを摘んで食べていたと聞き、それほど食料がなくなっていたんだということがわかりました。向井さんの思う平和とは、「人の命を奪わないこと」と言っていて、僕もとても共感しました。

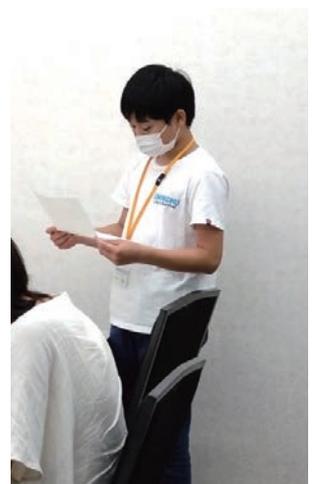
2つ目は広島の袋町小学校です。袋町小学校は爆心地のそばだったのでほとんどの先生と生徒が亡くなったそうですが、鉄筋コンクリートの校舎だけは残り、被爆した人たちの救護所として使われていました。その時書かれた行方不明の家族への伝言の壁や黒板が、1999年に校舎の建て替え工事で発見されたそうです。一度塗り替えられた伝言が書いてあった壁のペンキをはがし、文字を読み取る作業は、たくさんの専門家によるコンピューター解析で行われたそうです。消えたと思われた伝言が54年の時を越えて出てきてくれたことは良かったと思いました。

3つ目は広島で見た「原爆の子の像」です。この像は佐々木禎子さんという少女がモデルとなっている像です。禎子さんは2歳のころに被爆しましたが、幸い怪我ひとつありませんでした。運動神経がよく、あだ名は「サル」と呼ばれ、男子でもかなわないほど足が速かったそうです。しかし、小学六年生になってから、体調が悪くなり、病院に行くと原爆症による白血病と診断され入院生活となりました。そこで入院

中、折り鶴を千羽折ると願いが叶うことを知り、病気を治すために薬の包み紙などで折り鶴を作り続け、1300羽ほど折ったそうですが、病気は治らず亡くなってしまいました。僕と同じくらいの年齢で亡くなったと考えたら、もっと友達を増やしたり、遊んだり、勉強したりしたかったらなあと思うくらいになりました。禎子さんの死を悼んだクラスメイトが立ち上がり、原爆で犠牲になった子どもたちみんなのためにと募金活動をし、作ったのが原爆の子の像です。像の周りには、たくさんの折り鶴が飾ってあり、僕たちも平和を願い千羽鶴をお供えしました。

4つ目は広島平和記念資料館です。ぼろぼろで原形をとどめていない三輪車や服。なにもかもが悲惨なものでとてもショックを受けました。特に心に残ったのは折免滋君の弁当箱です。滋君は中学1年生で建物疎開中に被爆しました。母親のシゲコさんは必死になって滋君を探し、滋君の死体と、抱えられた弁当箱が見つかりました。その弁当は、滋君が出征中の父と兄に代わって作った畑からとれた大豆と麦の弁当で、喜んで持っていったそうです。それを食べることなく亡くなってしまったことを考えると、何とも言えない悲しい気持ちになりました。

僕はこの平和学習で、原爆は想像以上に恐ろしいものだと思えて感じました。そして現在の活気あふれる広島の街並みを見て、こんなにも復興したんだなあ、と広島の人々の底力を感じました。戦争は絶対に起こしてはいけないということ、平和がどれだけ大事なことなのかがわかりました。これで満足せずに、学んだことを周りの人や次の世代に伝え続けていくことが大切だと思います。こういう小さなことからどんどん平和が広がっていくと思うからです。



広島に行って学んだこと

浜口 峻輔

僕は、この広島派遣事業に参加する前は、戦車や軍艦に興味を持っていましたので、戦争のことを詳しく知りたいと思いました。5年生になってこの広島派遣事業の申込用紙を見て、これは、いい経験になるし、広島のことを知ることができると思いました。そして広島に行くことが決まりました。僕はうれしくて、大喜びしました。

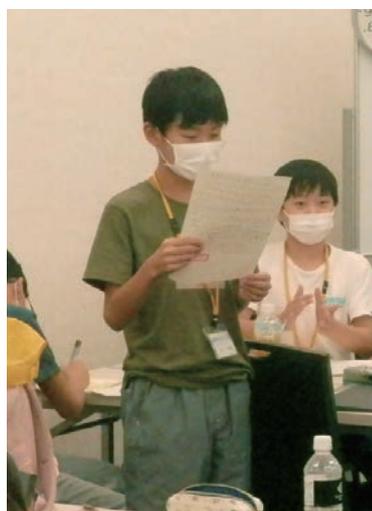
それから広島の前爆のことを少しずつ調べました。そして平和学習にも参加しました。1日目は、長崎の前爆被害者の向井さんとの座談会で長崎の前爆のことを知りました。聞いていて一番驚いたのは、小学生で被害者です。向井さんは前爆という地獄を小学生で体験していました。ぼくは、向井さんが地獄を乗り越えてきたことをすごいと思いました。

次は、広島に行ったことです。僕は、広島の前爆記念資料館を見学しました。見学をした中で一番衝撃だったのは、人影の石です。僕は、人影の石を見た時、頭が真っ白になりました。たった1つの爆弾で人間があんな姿になるなんて、僕はもう見たくないと思うぐらい衝撃でした。僕は、前爆記念資料館を見学して本当にこんな地獄が日本に存在したんだと思いました。

8月6日に行われた前爆記念公園での平和式典に参列しました。参列した国は、111か国で参列者数は、約5万人だそうです。たくさんの国や人が集まっていて驚きました。こんなにも人が集まっていることで、日本だけでなく世界中の人々が平和を願っていることがわかりました。

僕はこの広島派遣事業に参加してこれからどうしていきたいかを考えました。それは、この戦争や前爆のことを身近な人に伝えていくことです。この戦争や前爆のことは絶対に忘れてはいけません。だから身近な人に伝えていくことで戦争

の悲しみを知ってもらい、その考えが少しずつ広がっていくことを願っています。それこそが僕たちのような戦争を知らない世代の役割だと思います。



C グループ

広島派遣事業を通して

鈴木 嶺亜

私は地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業を通して戦争の悲惨さや恐ろしさをより身近に感じられ、平和とは何なのか、どうしたら平和になるのか知ることができました。

まず、被爆石モニュメント見学では長崎市立山里小学校について学びました。山里小学校は原爆が落とされた8月9日は休みでした。しかし、1500人いる生徒の内1300人の生徒が亡くなりました。このことを知り、原爆が与える被害の範囲がとても広く逃げ場がないということがよくわかり、もう二度とこのようなことは起きてほしくないと思いました。

次に平和観音について学びました。平和観音はB29が墜落し亡くなったアメリカ兵11人を追悼するために作られました。当時日本は観光目的で使われていた線路を回収され、戦争目的に使われるなどアメリカにとっても追い詰められている状況でした。また当時の日本はアメリカ兵は鬼だと考えており、アメリカ兵は怖いやつ、関わってはいけないやつだと考えていました。それにもかかわらず、亡くなったアメリカ兵を追悼するのはすごいと思いました。もし私がその場にいたらきっと自分を守ることで精一杯で、恐怖を与える敵兵に対して追悼しようなどという優しい心は持てないと思います。だから追悼した人は本当に思いやりがあり、優しい心を持ったすごい人だと思いました。

被爆者のかたとの座談会では今まで私が知っていた戦争よりもはるかに恐ろしい戦争だったと知りました。また、戦争について教えてもらっただけでなく今私たちができることも教えてくれました。それは「感謝」することです。当時の子どもたちは学校に行っても勉強をするのではなく、戦うための訓練をしたり、働いて戦争で使う武器を作ったりするのが当たり前で、お腹いっぱいご飯を食べることもできなかったのです。ですが私たちは当たり前のように学校で勉強し、当たり前のようにお腹いっぱいになるまでご飯が食べられます。だからこそ今当たり前になっている些細なことにも感謝することが大切なことだと教えてもらいました。

広島平和記念資料館ではキノコ雲やその日に食べるはずだった真っ黒になったお弁当、やけどやケガで苦しむ人たちの写真や血の染みついた衣服、当時の様子を描いた絵などが展示されていました。それらは私が想像していたものをはるかに超えており、とても痛々しく、恐ろしく、これが現実だったと思うと鳥肌が立ちました。

平和記念式典では原爆で亡くなったかたの遺族の方々を目の当たりにし、原爆は78年経った今でも人々を苦しめ続けている恐ろしいものだと思います。

また、数えきれないほど多くの国から人々がこの式典に参列していたことを知りました。広島に投下された原爆はそれほど重大なことだったのです。しかしこの式典に参列した国の一瞥を見るとロシアや北朝鮮などの国の名前がありませんでした。私は、今戦争をしていて核兵器の使用をほのめかしているロシアなどの国の人々には特にこの式典には参列し、二度と核兵器が使われないように核兵器の危険性、使った瞬間だけでなくその後何年も数えきれない人を苦しめ続けていることを深く知ってもらいたいです。それはとても困難なことだというのは分かっています。ですが、もしそのような国の人々が広島を訪れて核兵器の恐ろしさを少しでも知ってくれたら、世界が平和になる日がほんの少しでも近づくと信じています。

被爆者体験講話で聞いた「平和は力を合わせないと逃げていきます」という話。今の私にできることはより多くの人に戦争と平和について深く知ってもらい、より多くの人と力を合わせ今の平和が何十年何百年たっても続くように守り抜くことだと思います。些細なことにも感謝の気持ちを忘れず、毎日を大切に生きていこうと思います。



平和への願い～私たちにできること～

近藤 穂風

私はこの広島派遣事業をとおして、戦争の悲惨さや平和とはどんなもので、どんなに大切なのかを学びました。

私は実際に広島に行き、被爆者のかたは生き残っても心の傷は癒えないが、後世に伝え続けるために、忘れたくても忘れてはならない被爆の様子や建造物を残しているのだと学びました。

例えば、広島平和記念資料館では最初「なぜ、こんな怖い写真や被爆物を展示しているのだろうか。」と不思議に思っていました。ですが、今思うと「怖い印象」をつけることで「原爆とは、核とは、戦争とは恐ろしいもの」と特に視覚的に訴えて理解してもらおうという意味での後世に伝えていくためというものなのだと思います。

また、私は人の「生きたい」という強い意志ですら戦争では一瞬で消えてしまうほど、儂いものであると思いました。

私の曾祖父を含めた兄弟は出征し、一人だけ帰って来ませんでした。曾祖母の家には遺影が飾ってあります。

普通に朝起きて、普通に学校に行って勉強したり友達と話したりして帰ってきて、家族でおいしいものを食べたりして、普通に寝るという「当たり前」の日常が平和なのだと、私は思いました。

「みんなで力を合わせて平和をたぐりよせ、つかみとって守らないと、平和はすぐにどこかへ逃げてしまいます。」と伝承者のかたがお話しされていました。つまり、一人が平和のために一生懸命行動しても実現は困難なのだと思います。

では、私たちにできることは何があるのでしょうか。私はまだ選挙に参加することはできませんが、ニュースや新聞、学校の勉強をして今はどんな政治が、世界では何が起きているのかを正しく理解することはできます。私はこの広島派遣事

業に参加する前はニュースなどを聞き流していたり、あまり関心を持っていなかったのですが、今ではニュースや世界情勢を気にして話を聞くようになったと思います。そして私は、人の話をよく聞いて自分の意見を持つと思いました。

今、起きているウクライナとロシアの戦争はいつまで続くのだろうかと考えます。正直、私はなぜ戦争をするのかがわかりません。どっちから始めたとしてもお互いが自分自身を正当化していたら終わらないのではと思います。しかし、中にはこの世からいなくなる人もいるし、悲しむ人もいます。その事実だけは隠すことは絶対に出来ないし、絶対に許されることのないことだと思います。

私たちはそんな現実から目を背けてはいけなと思います。そこで私たちが現実逃避をした瞬間、戦争に苦しむ人が増えてしまうかもしれません。現実を見て、受け止めることができることが人の道徳的な心なのではと思います。

私はこの広島派遣事業という貴重な体験で多くの学びを得ることが出来ました。世界中の人々が戦争の悲惨さを平和の大切さを学んで理解し、自分自身が平和やみんなの笑顔・幸せに向かって身近なことから一つずつ平和につなげていきたいと思えます。



戦争をなくすためには

伊東 春野

なぜ戦争はしてはいけないのだろうか。学校で先生からも、周囲の大人からもそう教えられてきたし、新聞やニュースでも同じように伝えられている。私は戦争はよくないことだと思っていたものの、自分の身近なものとして考えることができなかった。なぜなら、日本は78年も前に終戦しており、現代を生きる私たちには関係が無いように思えたためだ。しかし最近、祖母に教えてもらった英語のレッスンで、原爆の話について勉強する機会があり、もっと詳しく知ってみたいと感じるようになった。

今年の夏、東村山市の広島派遣事業があることを知り、勇気を出して応募した。初めて訪れた広島で、改めて戦争と原爆について学ぶなかで、特に心に残った場所がふたつある。

爆心地から460メートルの袋町小学校では、約160名が全滅となり、多くの罪のない子どもたちが亡くなった。資料館には、当時書かれてた、子どもを探す親や助かった生徒からの伝言が保存されている。

私はそれを読んで、親子の大切な日常と何気ない友達との学校生活が、原爆によって永遠に失われてしまったことに、強い恐怖と憤りを覚えた。

翌日の8月6日、平和記念公園で「原爆の子の像」を直接見ることができた。女の子が大きな鶴を持っている立ち姿で、戦争に関係がないにも関わらず、原爆のために亡くなった子どもたちの悲しみを、辺りの多くの折り鶴と、空に掲げられた鶴が背負っているように思われた。この像は、2歳で被爆した佐々木禎子さんをモデルに作られている。彼女は運動が得意で、特に走ることを大好きで、将来は体育の先生になることを夢に描いていた。小学校6年生でリレー選手に選ばれた運動会の後、原爆が原因の白血病を発症し、13歳で

亡くなった。禎子さんは、亡くなる直前まで、長寿のシンボルである鶴を折り続けた。

原爆は戦争が終わった後も、被爆者の命を奪い続け、心と体を傷つけ続けるものだ。これほどの悲劇を引き起こす戦争を、もう二度としてはならないと強く思った。

私は今12歳だ。自分と同じような子どもたちが、戦争でどんな目にあつたかを知り、私と関係のない出来事ではないと実感した。

今、自分にできることは何だろうか。それは、英語を勉強することだと思う。更に、英語だけでなく他の言語も勉強していきたい。覚えた言葉を使って、観光で訪れたり、日本で働いたりしている外国人に話しかけてみたい。外国の友人をたくさんつくり、自分と価値観の違う人とも話し合い、お互いの考えや意見をより広く、深くしたい。そうすれば、国と国の戦争を防げるのではないだろうか。私は、ひとつひとつ積み上げていくことで、戦争のない世界を作っていきたい。



平和への思い

渡辺 陽菜

私は、広島派遣事業に参加して原爆や戦争への怖さや悲しさ、つらさを知ることができました。

派遣事業で広島に行く前は、広島は楽しい場所だと思っていました。でも実際広島に行き、広島平和記念資料館を見学した時、遺品の横に写真と言葉がかざられていました。「これは私の大事な物よ」との言葉とやけこげた指輪が置いてありました。私はそれを見て、誰かに見せたかったのかもしれない、でも原爆のせいで、願いがかなわなかったのかと、悲しくむなしくなりました。また被爆の惨状を現す写真や絵を見て怖くなり、私が思っていた広島とは全然ちがっていました。一発の爆弾で沢山の人の命や、笑顔を一瞬にして壊した原子爆弾は、二度と使ってはいけないと思いました。

私たちの住んでいる東大和市は、旧日立航空機株式会社変電所があり、爆撃を受けたことは知っていました。でも、多くの人が亡くなったことや防空壕に逃げたのに亡くなった人がいたことは、知りませんでした。また東村山市には、原爆の恐ろしさを伝えるために置かれた被爆石モニュメントや、B29が墜落した場所に建つ平和観音は、乗っていたアメリカ兵を追悼し、平和を祈念するために作られました。自分が生まれる何十年も前に、こんなにも大きな戦争が自分が住んでいる地域であったことを、この平和学習で学びました。日本に爆弾を落としていたB29が墜落し、亡くなったアメリカ兵を埋葬した話を聞き、私は敵なのに一人の人間として敵味方関係なく埋葬ができることは、スゴイなと思い、私には絶対できないと思いました。

今回派遣事業で、地域の戦争についてや、広島に行って原爆の怖さを学びました。それらを通して、平和ってなんだろうと考えた私が思う平和と

は、戦争や核兵器がない世界では人がごはんを食べられたり、友達家族と一緒に暮らし笑っていられることだと思います。ごはんが食べられたり笑っていることはできても、戦争を止めること、核兵器をなくすことは、私にはできないが、人に伝えることはできる。たとえば学校で原爆の怖さや、広島の悲惨さや悲しさを伝えることはできる。毎年平和のつどいがあることを伝えてみんなに来てもらって、戦争をしてはいけない、核兵器は怖いということを知ってもらえることはできる。そしてみんなに戦争はだめ、核兵器を作ってはだめということ伝えることはできる。今のこの平和が長く続いて欲しいと思います。

学年も学校も住んでる場所も違う人たちと一緒に広島に行き、色々な意見や考え、思いを聞いて、絆も深まりとても良かったです。最後に、この広島派遣事業と一緒に来てくださった市役所の方々本当にありがとうございました。



広島に行って思ったこと

田村 花音

広島に行けることになったよ。と母から伝えられた時、うれしいという気持ちと同時にちゃんとできるかなあと、少し不安もありました。説明会では、緊張してしまい、うまくしゃべることができませんでした。

そして迎えた出発の日、お母さんと弟が見送りに来てくれました。やっぱり緊張したけれど、すぐに友達ができ、少し安心しました。

広島に到着してすぐに、被爆者の話を聞いて、びっくりしたり、こわくなったり、色々な感情がこみあげてきました。

次の日の平和記念式典。とても暑い中大変だったけれど、広島市長のお話がとても心に残りました。

そして次の日の平和記念資料館。いろいろな怖い写真があったけれど、しっかり見なくてはと思い、がんばりました。人はどうしてこんなばかんなことをしたんだろうと、怒りもわいてきました。

とうろう流しは、とてもきれいで、平和を願う気持ちになりました。

大変な学習の中、ほっとできたのは、ごはんの時間。私が一番おいしかったのは、広島焼きです。大きくてびっくりしました。とにかく、いろいろな初めての体験づくしの3日間。私はこの事業に参加するまで、広島に原爆がおとされたことも知りませんでした。ただなんとなく昔、戦争があったということは知っていましたが、ただそれだけで、戦争がどうしてもいけないことなのか、人に説明しろと言われてもできなかったでしょう。でも、今ならできます。このことを、たくさんの人たちなどに、伝えていきたいと、強く思っています。そして世界中の人がみな同じ気持ちになれば、戦争はこの世から無くなるのだと思います。それは、とてもむずかしいことだと分かっているけれ

ど、日本は原爆をおとされた国なんだから、もっともっと、声を大きく、世界に伝えていくべきだと思います。そして私も、平和な世界になるために、自分ができることを考えて、がんばっていきたいと思います。本当に参加できてよかったです。ありがとうございました。



D グループ

広島派遣事業の感想

安部 俊也

今回の広島派遣事業で思ったことが5つあります。

1つ目は戦争の怖さについてです。私たちは戦争を体験したことがありません。しかし、だからといって戦争の怖さを人々が忘れてはいけないと思います。私にはこの広島派遣事業で広島に落ちた原爆の怖さ、生き残った人々の苦しみが痛いほど伝わってきました。

2つ目は人との関わりは楽しいということです。私たちは初めて会ったにもかかわらず楽しく話すことができました。特に楽しかった時はとうろう流しの時です。流す時はもちろんのことですが、待っているときがとても楽しかったです。それまでそんなに話せていなかった人とも楽しく話すことができました。

3つ目は平和についてです。私たちは普段平和について考えることはありません。しかし今回の事業で平和とはなんなのか考えることができました。自分が思うにそれは戦争がなくなって今のような生活を送ることだと思います。そのために自分ができることは、戦争の危険性を後世に語り継ぐことだと思います。今の世界はもう原爆の怖さを知る人が多くいません。そして今ウクライナではロシアによる卑劣な侵攻が行われています。これは核爆弾や戦争の怖さを忘れているからこそ出来ることです。私はこの広島派遣でよくわかりました。なので私はこの広島派遣で学んだことを活かして戦争の怖さを伝えていきたいです。

4つ目は、ホテルでのことです。ホテルでは3人1部屋になって過ごしましたが、自分の部屋はとてもにぎやかで楽しかったです。朝食のビュッフェもとてもおいしくみんなと話しながら食べる

のがとても楽しかったです。

5つ目は、色々なところに行ったことについてです。この事業では本当に色々なところに行きました。まずは、平和記念公園。ここでは原爆ドームや平和の灯などを見ました。特に平和の灯は世界から核が消えるまで火が消えることがないと聞いてとても驚きました。次に旧広島市役所や小学校などです。ここでは実際の建物のなかに資料館などができていました。特に伝言を壁などに残していたのを知ったときはパニックなときでもちゃんと連絡できる場所があったんだなあと感心しました。あとは広島平和記念資料館などです。ここでは、原爆が落ちた時の写真が多く展示されておりとても怖かったです。

最後に、私は今回の広島派遣を通して戦争の怖さ、平和の大切さをよく学びました。ほかにもたくさん友達もできてとても楽しかったです。このさき戦争の怖さを忘れず、人から人へ伝え続けることでいつか戦争をなくし平和に繋がってほしいと思います。



広島派遣の感想

大塚 海緒

私が広島派遣事業に参加した感想は、まず長崎で被爆された向井さんの話を聞いたことで、戦争中はおじさんの家に疎開をされていてすごくさみしかったと言っていたことがすごく心に残りました。食べるものも何もないので、原爆がおちたときも魚をつっていたらしいので、私は子どもまで食べるものを取りに行くぐらい大人は忙しかったことがよくわかりました。それに子どもの遊びは、男の子は戦争ごっこというものをしていて、いろいろな兵隊に分かれて戦争をするということをしていて、女の子は看護師ごっこをしていて患者役に包帯などをまくということをしていたらしいです。話を聞いて一番印象深かったのは、知り合いが簡単に亡くなってしまうと言っていたことです。向井さんの友達も弟と2人だけとお母さんとお父さんも亡くなってしまっているのが、がれきをくみだてた仮の家で食べものは全くなかったです。だから、向井さんは少しでも芋を持って行ったらしいのですが、着いたときにはもう亡くなっていたらしいです。その話を聞いて私は、あたりまえのように人が亡くなる戦争は絶対にやってはだめだとあらためて感じました。

次に広島で被爆された切明千枝子さんの話を代わりにいただいた楠本昭夫さんのことで、戦争中の女子学生はほとんどの人が工場で働いていて、切明千枝子さんもガラス工場で働いていたらしいです。原爆が落ちたときは足をけがしていたので、病院に向かう途中で畑の道具小屋で休憩していたらしいです。

その後、くずれた小屋からやっと出られてガラス工場に戻ったら、屋根がつぶれていて助けを呼ぶ友達の声が聞こえたらしく、なんとか助けられて2人で高い山に逃げたらしいです。その数日後に小学校でけがをした子の看護をしていたら、水

が飲みたいとたくさんの子に言われたらしいですが、先生が水を飲んだら心臓がびっくりして死ぬよと言って飲ませられなかったらしく、私は私が千枝子さんだったらコッソリ飲ませてしまうかもしれないと思いました。その話の中で一番おどろいたのは生徒の死体は生徒が焼くということで、話によると校庭で焼きますが、焼いている途中に起き上がったたり焼き終わったあとの骨がピンク色だったたりして怖かったと言っていて、私も焼いている途中に起き上がったしたら謝っても謝りきれない気持ちになると思いました。

このような貴重な話を聞かせてもらったからには、私はもう一度平和について考え直してみようと思いました。



広島派遣を通して考えたこと

加藤 大翔

僕は、この広島派遣事業を通して核の恐ろしさや戦争の必要性についてもう一度深く考え直すことができた。

戦争や核について最初は少ししか知識が無く、想像することもあまりできなかったが、資料館や被爆者のかた、現地の人たちから見て、聴いて戦争とは何なのか、本当の平和とは何なのか知ることができた。

僕は核に限らず、戦争はあってはならないことだと思っている。

その理由は「家族」や「友達」との見えない命のリボンというもので繋がっているからだ。そのリボンが繋がっているからこそ、考えを共有したり感情を分かち合うことができる。

だが「人が死ぬ」となると繋がっていたリボンは一瞬にして硬くて重く、黒い鎖に変わってしまう。

「家族」や「友達」と繋がっていたリボンが重い鎖に変わってしまうと、「家族」や「友達」はその重くて硬くて黒い鎖と一緒に一生を生きていかなければいけなくなる。そんなことはあってはならないと僕は思う。世界中のみんながリボンで繋がっていて、戦争に限らず何らかの戦いで生き物が「死ぬ」ということを無いようにしていきたい。

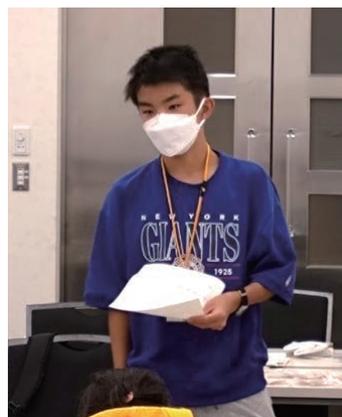
世界にはまだ一万発以上の核爆弾が存在していると言われていて、今戦争が起きたとなった時にいつ、どこで、どの国が使っても僕はおかしくないとと思う。

戦争について勉強し、被害にあった建物にもさわり、そして、原子爆弾が投下された都市広島市にも行き被害にあった人々の話を聴いていた僕は、平和を未来へつないでいくという上向きの気持ちと、戦争への悲しみなどの下向きの気持ちが交差

して、複雑な気持ちになった。

戦争に限らず、国と国の関係や問題など、世界にはさまざまな解決に向けて動いていかなければいけないことが山ほどあるが、一つ一つ少しずつでも解決できたらそれは世界にとって大きな進歩であると思う。

これからも先は長いですが、僕も協力できることがあったら協力していきたいと思う。



私が派遣事業で学んだこと

北原 朋実

私はこの事業に参加する前は、「昔戦争が起きて人がたくさん亡くなった。」くらいしか戦争について知りませんでした。でも、この事業に参加して平和の尊さ大切さ、戦争は起こしてはならないなどたくさんしたことについて学びました。事前学習会では、変電所に行き本当に戦争はあったんだと初めて実感出来ました。それに、被爆者の向井さんの生々しい話を聞かせていただき、核のおそろしさ、日ごろの感謝の大切さなどをあらためて理解出来ました。そして、実際に広島へ行き、資料館、小学校、広島平和記念式典など3日間でたくさんの学び、経験が得られました。その中で特に印象に残ったのは、原爆の子の像です。モデルになった佐々木禎子さんは2才の時に被爆し、10年後いきなり原爆症を発症し、白血病で亡くなりました。私はこの話を聞き、10年経っても原爆症を発症することがあるということを知り、自分が生き残ったとしてもその怖さが残るのはつらいだろうなと思いました。ちなみに、禎子さんは生きる希望として亡くなるまで折り鶴を折り続けました。私たちも行きの新幹線で折った千羽鶴をかざりました。私たちの平和への思いがみんなに届いてほしいです。他には、袋町小学校に行きました。そこに置かれていた太鼓が爆風により、つき破られていて、こんなにも威力のある爆風だったと知りおどろきました。78年前のチョークの跡を見て、一瞬の出来事ですべて変わってしまったということが分かり、戦争はなにげない平和な日常を簡単に壊してしまうのでとても恐ろしいと思いました。

最後にこの事業を通して私は、戦争・平和についてたくさん学びました。この世界から、戦争・核をすぐには無くせなくても一人一人の平和へのところがけで少しずつ少しずつ変わっていくと

思います。私自身に出来る平和へのところがけは、この国で戦争があったことを決して忘れず、周りの人に戦争・核など広島で学んだことを伝えることです。なので、この2つのところがけに努めてこれから過ごしていきたいです。



世界から戦争をなくすために、私にできることは

鹿沼 由唯子

「地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業」に参加した理由は、これまで私は戦争のことを何も知らなかったからです。私の母が小学生の時は8月6日は登校日で、先生から原爆の話を聞いたり、映画を見たりしたそうです。友達のお母さんは広島県出身で、夏になると街中が鎮魂の雰囲気になると言っていました。それで、私も広島に行つて、原爆について知りたいと思いました。

7月27日、28日に参加した時は、『被爆石モニュメント』『被爆者のかたとの座談会』が印象に残りました。『被爆石モニュメント』は、東村山市立中央図書館の前であつて、黒い石は長崎県、白い石は広島県で被爆した石です。この道は何度も通つたことがあるのに、ここにこんな石があると知つて驚きました。『被爆者のかたとの座談会』では、長崎県で被爆した向井保之さんからお話を聞くことができました。特に、「長崎に爆弾が落ちたことはラジオではいっさい流れなかった」と聞いてびっくりしました。今まで原爆なんて自分には関係ないことだと思つていたけど、私の住んでいる東村山に被爆体験をした人が住んでいて、実際にお話をすることができて、原爆のことを身近に感じることができました。

8月5日から7日には広島県に行きました。5日は、被爆体験者の切明千枝子さんの伝承者のかたからお話を聞きました。「原爆が落ちたとき、太陽が落ちたようだった。しばらく真っ暗闇だった」という話が印象に残っています。今回、私たちは切明さん本人ではなくて、伝承者のかたからお話を聞きました。原爆を実際に体験した人はどんどん少なくなつていて、伝承者に語りつがれていつてるそうです。私もここで聞いた話を友達などに話していこうと思いました。

6日は、『令和5年度平和記念式典』に参加し

ました。一番心に残つた言葉は、広島の小学生の「誰もが平和だと思える未来を、広島に生きる私たちが作っていきます」という平和への誓いです。私は広島の人ではないけれど、私も同じ気持ちになりました。

7日は、『平和記念資料館』に行きました。資料館にはたくさんの展示や写真がありました。私はその中で、『滋君のまっ黒なお弁当』が心に残りました。これは、中学1年生の滋君がその日食べるのを楽しみにしていたのに、食べる前に被爆して亡くなったときに抱えていたお弁当です。私はこの話を以前に本で読んでいました。ただのお話だと思つていただけで、実際にまっ黒なお弁当をみて、あの話は現実だったんだと感じて、悲しく思いました。それ以外にも怖い展示がたくさんあつて、なぜ、こんなにも恐ろしいものを展示なんかするのだろうと思つていたのですが、恐ろしいことこそ繰り返さないために伝えていかなくてはならないからだと分かりました。

私はこの夏この事業に参加して、良かったと思います。平和や戦争についてじっくり考えることができました。今でも戦争をしている国や、核を持っている国がたくさんあります。広島で起きたことや核の悲惨さなどを世界にも伝えていって、世界から戦争をなくしたいと強く思いました。



7

参加者アンケート

アンケートの目的

「平和」や「地域の戦争」、「広島」について、それぞれの考えがどのように変化するかを知るために、参加者20人に事業の実施前と実施後にアンケート調査を行いました。

アンケートの結果

実施前 本事業に参加を決めた理由 (単位:人)

平和学習をしたいから	10
広島に行きたいから	2
親に薦められたから	3
友人に誘われたから	1
その他	4

- 戦争のことを知りたいから
- 原爆ドームを見てみたかったから
- 学校の勉強で調べられなかったことを詳しく知るため
- 戦争の体験談を直接聞きたかったから

本事業に参加した理由としては、「平和学習をしたいから」が最も多く、10人の回答を得ました。その他として、「戦争のことを知りたいから」、「原爆ドームを見てみたかったから」、「学校の勉強で調べられなかったことを詳しく知るため」、「戦争の体験談を直接聞きたかったから」と回答した参加者がいました。

実施前 広島派遣事業で最も興味がある内容は何ですか (単位:人)

広島被爆者体験講話聴講	5
平和記念式典	1
袋町小学校平和資料館	1
本川小学校平和資料館	0
原爆ドーム	10
とうろう流し	1
広島市役所旧庁舎	0
広島国際会議場	0
広島平和記念資料館	2
国立広島原爆死没者追悼平和祈念館	0
原爆の子の像	0
その他	0

実施後 広島派遣事業で最も興味深かった内容は何ですか (単位:人)

広島被爆者体験講話聴講	2
平和記念式典	3
袋町小学校平和資料館	0
本川小学校平和資料館	0
原爆ドーム	2
とうろう流し	0
広島市役所旧庁舎	0
広島国際会議場	0
広島平和記念資料館	11
国立広島原爆死没者追悼平和祈念館	1
原爆の子の像	1
その他	0

広島派遣事業で最も興味がある内容について、実施前は、よく知られている「原爆ドーム」が最も多くの回答を得ましたが、実施後は、「広島平和記念資料館」が最多の回答でした。被爆者の遺品など、被爆の惨状を示す写真や資料を目にしたことで、原爆による被害について、より一層、子どもたちに刻み込まれたことが感じられる結果となりました。

実施前 事業に対する意見など

身近な戦争のことについて、意外にも分からない、知らないことが多く、広島、長崎など原爆、戦争について広く知られているようなところを学びたいと思った。

私は、近代史を学ぶことが好きです。日本は、国の方針として、日本がした加害については、ほぼ教科書に書かない。愛国心が大切！それが国の方針。だから、教科書や、資料集を読んでも、「慰安婦」という言葉は、出てこない。私は、世界の近代史を学ぶことも好きです。私は日本の被害も、加害も知りた。今回の被害の方をもっと学びたくて、参加しました。

今回の派遣事業で戦争の悲しみ、平和の大切さを学びたい。

原爆ドームを生で見られるのがたのしみです。

戦争の時にご飯は何を食べていたのかを知りたい。

実施後 地域の戦争・平和学習会に参加し、身近な地域での戦争について実際に学び、どのように感じましたか

たった1つの爆弾でも人々の命はいくらでも奪うことができるのだと学び、生き残れたことを喜ぶことすらできないほどの苦しさがあったのだと感じた。

実際に学ぶ機会がないと地域の戦争について深く学ぶことはできないと思うのですごく良かった。地域の戦争については知らないことが多かったのですごくいい経験になった。

戦争はあってはならない戦いだと思った。核に限らず武力を使った戦いは二度としてはならない。

ずっと前に起きた被害も小さな戦争だと思っていたが、一瞬にして100人以上の命を奪ったと知り、とても恐ろしいと思ったし、もう二度と起こってほしくないと感じた。友達や家族など多くの人に伝えて、知ってもらいたいと思った。戦争の悲惨さを忘れないよう、今残っている当時の建物などをこれからも大切に保管してほしいと思った。

これまでは戦争は自分と関係のないことだと思っていましたが、戦争を身近に感じ、哀しみを感じました。

防空壕で死んでしまった人がたくさんいて、どこにいても危険だと思った。

戦争について主に広島や長崎のイメージが強く、身近な地域での戦争は全くと言っていいほど知らなかった。しかし、今回の事業を通して身近な地域でも戦争が起こり穏やかな日々の生活が、尊い命が奪われたことを知った。戦争の悲惨さ、おろかさを伝えるものを残しもう二度と同じような出来事をおこしてはいけないと伝えたい。当たり前だと思っている何気ない日々の生活について考え、感謝して過ごしていこうと思った。

変電所が、他の変電所と間違えて攻撃されていたことに驚いた。工場を攻撃しようとしていたのに、工場の近くに防空壕を作ったのがおかしいと思う。

私が今幸せに暮らしている所でも、80年ほど前は、軍国、帝国、日本だった。そのことを現実のことだと分からせてくれた。こんな近くでも空襲や爆撃があって、大勢の人が亡くなっている事に驚いた。変電所、原爆ドームのような戦争の悲惨さを伝える建物が私のこんな近くにあることにびっくりした。旧日立航空機株式会社変電所での爆撃。こんなにも、沢山の命が奪われ、米軍が間違えて爆撃したことがショックだった。

東村山市でも戦争をしていたのだと知って、広島や長崎などが被害にあっているのではないと思いました。

自分の生まれ育った地域で起きたことを学び、身近に感じて当時の様子を考えることができました。また、今暮らしている所の地形や電車なども、戦争の影響を受けて今の地域になっていて、戦争時と今のつながりを感じました。

14歳から15歳の少年が戦地に行き、作戦命令や報告を通信するために、厳しい訓練を受ける学校が東村山にあったと知り、今自分が住んでいる地域で戦争があったと実感した。

自分が思っていた戦争は広島などの遠い所で行われていたと思いましたが、この学習をとおして、こんなにも身近に戦争があったのかと驚きました。

変電所やモニュメントを見て、戦争の恐ろしさや怖さを知った。自分たちが住んでいる町で、あんな大きな被害があったとは知らなかった。

普段は感じられない怖さや悲しみなどがあったことが感じられた。

ぼくたちが住んでいるところで、こんなにも恐ろしいことがあったんだと思いました。

知らなかったことがいっぱいあって、いい勉強になった。

こんなに身近なところに戦争を伝えるものがあると戦争は起きてはいけないと言っているように感じた。

ぼくは、東大和市に住んでいるので変電所を知っていましたが、詳しくは知りませんでした。今回、中に入って、無数の貫通した穴を見て、恐ろしさに目が飛び出そうになりました。

自分の住んでいる市でも、戦争があったことにおどろいた。変電所を見学して初めて「戦争は本当にあったんだ」と実感出来た。



実施前 広島と聞いて思い浮かぶイメージは何ですか

原爆ドーム・原爆・戦争・朝鮮	原爆ドーム・もみじ・かき・お好み焼き	お好み焼き・新幹線・原爆ドーム・原爆が落とされた町のひとつ	禎子の像（鶴）・平和記念公園・世界で最初に原爆が落とされた場所
原爆・お好み焼き・佐々木禎子さん	原爆ドーム・お好み焼き・式典・G7	お好み焼き・原爆ドーム・もみじ饅頭・厳島神社	お好み焼き・厳島神社・かき・原爆ドーム・岸田文雄・もみじ饅頭・レモン
原爆ドーム	かきの養殖	もみじ饅頭・原爆ドーム・広島焼き	原爆ドーム・お好み焼き・レモン・もみじ饅頭
原爆が8月6日に落とされた	宮島厳島神社と原爆ドームといった世界文化遺産がある。	お好み焼き・かき・原爆が落とされたところ・原爆ドーム	原爆ドーム・厳島神社・もみじ饅頭・G7
厳島神社・もみじ饅頭・「たすねびと」（本）・原爆ドーム・はだしのゲン	原爆ドーム・厳島神社・お好み焼き・もみじ饅頭・広島カーブ・平和記念都市（広島市）・宮島・呉市・造船・かき・広島城・毛利・瀬戸内海・瀬戸内工業地域の一部・広島尾道一愛媛の今治→瀬戸内しまなみ海道（自転車、車）・自動車の生産		
原爆ドーム・政令指定都市・かきの生産1位・厳島神社・お好み焼き・暖かい気候		原爆ドーム・原爆（原子爆弾）が落とされた都市・もみじ焼き・厳島神社・広島焼き（お好み焼き）	

実施後 実際に広島に行った後、広島についてどのように感じましたか

本当に広島で戦争が起こったのだとわかって、戦争というものがかつたし、広島が戦争というイメージが変わった。	「広島といったら原爆」といった単純なことしかイメージしていなかったけど、実際に行ってみて、戦争について深く理解することができた。戦争の怖さがよくわかった。	原爆が落とされて、核を持たない、作らないとよびかける取り組みをしている。原爆の恐ろしさ、平和の大切さを伝えていていると思った。
広島はお好み焼きとか広島カーブとか楽しそうなイメージでした。原爆が落とされたことは知っていたけど、広島に行って原爆の悲惨さを実感した。原爆が落とされ、70年草木が生えないと言われていたが、翌年には草が生え始め、小さな希望をもち、強く生きた人々がいたことから、すごいところだと感じた。	今は明るい町だが、まだ原爆の被害が根強く残っていて恐ろしかった。	広島に行ってぼくは、本当に原爆が落ちた場所にいるんだと思いました。
原爆によって、自分が思った以上に多くの人が亡くなり、心や体に傷を負ったのだと思いました。	特に広島平和記念資料館の展示品が、思っていたよりもすごく悲惨で残酷でした。	広島は原爆が落ちた怖いところだと思っていましたが、全然そんなことはなくて、みんな優しく面白くて前向きだった。「怖い」というイメージと真逆で驚きました。
原爆が落ちて、何もかもまっさらな状態から今の栄えた広島にいたるまで、どんなに大変だったのだらうと思いました。そして原爆の恐ろしさを世界中に伝えるには広島という存在は大切だと感じました。	思っていたより多くの人が大げがをしていた。	初めは水が多いだけだと思ったけど、水が多いのは戦争で水を飲ませてあげたいけど飲ませられなかったということがあったことが分かり、つらい思いが感じられた。
78年前の原爆によって日常を壊され、被害を受けた。広島は、戦争による被害を伝えていき、もう二度と戦争を起こしてはいけないと、平和を強く願っている場所だと思った。人々が立ち直り、町を復興させ、明るく発展していた。	思っていたより都会でびっくりした。平和・戦争についての展示があるのは知っていたけど、本物が置いてあったのでより身近に生々しく感じられた。	日本で核が落とされた町の1つで、50年以上たった今でも休むことなく式典をしていて、平和の大切さが分かった。8月6日の広島は忘れてはいけないと思った。
テレビで式典の様子を見て、また、そのとき原爆など知らなかったの、なにをやってるの?と思いました。おいしい物がたくさんあるイメージだったけど、実際行ってこんなに恐ろしいことが、あったことを知り、イメージとは全然違っていました。	原藤ドームの周りはまだ整備されていない所がいくつかあると思っていたけど、高い建物などがたくさん建っていて、少し東京の都会の方に似ていると思った。原爆ドームがなくなってしまうたら、78年前広島で起こった原爆について信じてくれない人が出てきてしまうのではと思うほど、想像していたよりもきれいな場所だった。	破壊しつくされ、100年草木は育たない。そんな事も言われていた。私が行った広島は、新宿より都会、大都会だった。所々被爆した建物があり、平和記念公園の近くにはいくつも慰霊碑のようなものがあつた。私のイメージは、広島は原爆が落ちた場所。でも行って改めて分かったこと、考えたことは、それは原爆が落ちる前も、落ちた時も、落ちた後も、人がそこで生活していたということ。国立広島原爆死没者追悼平和祈念館を見た、破壊しつくされた広島。今、私が行った広島と結びつけることがすごく難しい。でも、核がもう落ちることなく、この悲惨さを伝えるため、原爆ドーム・資料館があり、私でも現実のことだとわからせてくれた。そして、生命力を感じた。
	とてもいい町だと思った。	戦時中の悲惨な状況から、今の平和できれいな街並みを作り上げた、広島の人々の底力を感じた。

実施前 平和とは何だと思えますか

戦争がないこと。世界中の人々が戦争の悲惨さを知り、平和の大切さを伝え合うこと。みんなが仲良くすること。	だれもが安心して暮らせて、仕事や学校に問題なく行けること。1人1人の意見を尊重してもらえること。	みんな仲良く、笑顔、国同士の争いがない、資源がたくさんある。	「世界中の人々が普通のあたりまえな生活を送ることができること」が主だと思えます。また、笑顔で楽しく、争いが起きない、違う意見も尊重し、手を取りあえる世界。		
朝起きてご飯を食べて、学校に行って夜寝るということを毎日繰り返してできること。戦争がないこと。安心して外出、生活できること。みんなが健康で笑顔でいること。					
平和とは、戦争などの醜い争いが起きず穏やかに、みんなが幸せになることだと思います。でも、それは簡単にはできないから、今はちょっとずつみんなが我慢して、その我慢がみんな同じぐらいの量になったらいいなと思いました。(我慢というのは、小さいことだと、人間関係などでお互いが我慢してわかり合うことです。)	戦争がない、みんなが公平に暮らせる。	みんなが楽しく生きていけること。	平和は、戦争が無くなることだけじゃないと思う。貧困が無くなることや、地球温暖化が無くなることもそうだと思う。人々が、そして動物、生き物全てが安全に暮らすことが平和なのではないかと私は思った。		
全ての人の人権が守られ、尊重される。全ての人が未来に希望を持てる。誰かが助けを求めたら、絶対に助けてあげられる。そして、人が人の命や心を奪うことがどういことか多くの人が考える。全ての人が、人として生きていくうえで必要な正しい知識を学べる場所、誰かが何かやってはいけないことをしてしまったとき、やろうとしてしまったとき、「ダメだよ!」と言え、止められる世界。人権!それが平和と深く、関わっています。	笑顔でいられる環境、武力で解決しない、武力を使わない、誰かに奪われない命や自由、生活。	いじめや差別がないこと、戦争がないこと、相手のことを考えること、自分のことも大事にすること。	平和とは、争いや紛争がなく人々が安心して暮らせる状態だと思います。相互の敬意や協力があり、平等と正義が尊重されていることも重要だと思います。		
みんなが幸せに暮らせること。	みんなが仲良く平等に生きること。	争いをしないこと、核兵器を使わないこと。	戦争がなくみんな平等、みんなが笑える世界になること。	みんなが笑っている世界。	戦争はしない、仲よし。



実施後 平和とは何だと思えますか

人々の命を勝手に奪ったり、奪われたりしないこと。何気ない日々が送れること。だれもが笑顔で幸せに暮らせること。平和は待っていれば来るものではなく、力を合わせてたぐりよせるもの、そして守らなければいけないものであると被害者のかたから聞いた。	平和とは、争いがなくみんなが仲良く過ごすことです。	平和は戦争がない生活のことだと思います。	みんなできつっていき日常。今の普通が続くこと。
平和は、戦争をしない、核がない、けんかをしない、全員で平和にするとって取り組みをしなくては、逃げていってしまうものと思いました。	争いがなく、世界中皆が安心して暮らせることだと思います。	心から笑えること。	争いやけんかをしないこと。
当たり前次に次の日が来て、食卓を家族で囲み、学校で勉強ができて友達と遊び、笑って楽しく生活できること。	戦争が起こらない。みんながご飯などを毎日食べられる。みんなが毎日笑い合って楽しく過ごす。	勉強できること。あいさつをすること。安心して暮らせること。遊ぶこと。人や物を大切にすること。	平和とは今生きていることだと思います。この先、戦争や伝染病など何が起こるかわからないので、今生きることが一番の平和であると考えてべきだと思います。
全ての人の人権が尊重され、民主的な社会。自分と違うけどそれでいい。そう思える社会。権力が暴走することがなく、軍というものがいない世界。自分も社会の一員で、社会を変える力を持っていると思える。全ての人の人権が尊重される。そして、人権を守るための法がしっかりしていて、十分すぎるほど、人を守り、大事にする法があること。SNS、インターネットの中で起きたこともさげられる。弱者が弱者として、生きられる世界。	普通に朝起きて、学校に行って帰ってきて、友達と遊んだり、勉強した家族でおいしいものを食べたりして普通に寝るとい「当たり前の日常」が平和だと私は思います。	友達と考えを共有する。だれかと話す。これだけでも平和だと思うことができた。	みんなが平等に楽しく生きられること。
	自分の命がおびやかされれない安全な生活を、当然のものとして日々送ることができるということ。		人々それぞれが、自分のやりたいことが出来て、ご飯が毎日食べられて、お風呂に入ることができて、寝られるという当たり前の生活。

実施前は平和についてのイメージが漠然としており、自分とは別の世界の話のように感じていたようでした。しかし、実際に現地へ行き、戦争の被害の様子について自分の目で見て耳で聞いたことで、今の日常が平和であることを実感していることがうかがえます。

実施前 本事業で何を学び、何を得たいですか (単位: 人)

戦争の悲惨さ	15
命の大切さ	13
平和を守ることの重要性	15
自分の目で見えて感じることの重要性	16
同世代の参加者との意見交換による気づき	5
平和学習に参加して感じたことを作文にまとめる力	5
その他	2

- 被爆者の悲しみや思い
- 自分で考え気づく力、周りに伝える力

※この設問は複数回答可であるため、合計が参加者数と一致していません。

実施後 本事業で何を学び、何を得ましたか

被爆の様子や建造物を残しているのは、忘れてはならない事実を後世に伝えるためであること、一人での平和の実現は困難だから、みんなで向き合うことが大切だということ、一発の原子爆弾が無差別に多くの命を奪い、生き残った人々の人生をも変えたということ。	原爆の悲しさと平和の尊さを学びました。その中で、1日1日、平和な生活を送れていることへの感謝の思いと、もう二度と戦争を起こさないという強い決意を得ました。	広島がどんな所か分かった。核、原爆が落ちて、破壊しつくされた。私の行った広島は、大都会だった。生命力を感じた。私のこんな身近に戦争があったことに驚いた。現地に行ってみることの大切さ。広島で起こった、言葉で言い表せない、悲惨なこと。それを、現実のことだと感じさせてくれた。	
戦争のことや、原爆の恐ろしさを学びました。死んでしまったら何もできないから、命を大切にしようと思いました。相手に優しくしたり、相手のことを考え、けんかを止めたりしたいです。	戦争の悲惨さ、平和への思いや願い、命の尊さを学んだ。自分で実際に行動して目で見えて学ぶことの大切さを知ること、自分の言葉で周りに伝えること。周りの人から話を聴いたり、話し合ったりすることで自分の知らないことを学び、違う視点からの考えを知ること。	広島に投下された原爆が与えた被害や当時の様子、戦争の悲惨さや恐ろしさ、今私たちにできることを学んだ。平和とは何かを深く考える時間や、実際に広島などを直接見て学ぶ機会を得た。	
平和の大切さや、原爆の怖さを知りました。この事業で、戦争・原爆への怖さがわかりました。	平和の尊さ、大切さ。戦争を忘れてはいけない、起こしてはいけない。	原爆ドーム以外に、原爆の子の像などがあったことを学びました。	戦争の知識を学び、戦争の怖さ、命の尊さ、今普通に暮らしているのが当たり前ではないということ。
戦争はその時だけではなく、終わった後も人を苦しめるものだということ。	戦争の恐ろしさと、繰り返してはいけない理由を、より具体的に学び、自分はなにができるのか考えることができた。日常へ感謝する気持ちを得た。	戦争の怖さや、(戦争が)なぜいけないのかということ。	平和の大切さ、忘れてはいけない広島のこと。
この事業で過去の人の苦難や戦争の怖さ、原爆の怖さがよくわかった。ほかにも人との関わりかたなど戦争のこと以外でもとても学ぶことが多かった。	教科書には書かれていない、平和記念公園には水がたくさんあり、それが水を飲めなかった人達へものと初めて知った。	原爆や戦争の恐ろしさ、悲しみ、苦しさを学ぶことができた。	戦争の怖さ、平和とは。 平和の大切さがよくわかった。 戦争の悲惨さ、平和の大切さを学び、そのことを伝えていくこと。

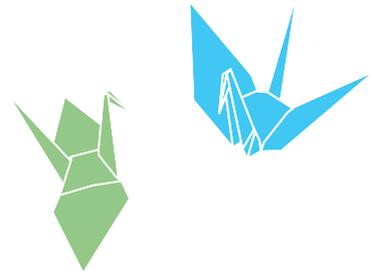
実際に現地を訪れ、被爆者体験講話を伝承者から聞いたこと、被爆の惨状を示す写真や資料を目の当たりにしたこと、平和記念式典で多くのかたと一緒に参列した経験から、戦争の悲惨さや平和の大切さについて実感することが多かったようです。また、同世代の参加者と旅を共にすることで、新たな絆が生まれていました。



実施後 本事業に参加してみて、満足度を教えてください

(単位:人)

満足している	19
少し満足している	1
少し不満である	0
不満である	0



実施後 本事業に参加した感想

自分の目で見て、耳で聞いて、衝撃的な体験であったと同時に、素晴らしく、充実した時間を過ごすことができました。このような貴重な体験をさせていただいたことを、心から感謝しています。

一生体験できないような貴重なことをさせていただきました。今回学んだことや経験を大切に、絶対に今後活かしたいと思いました。そして平和のために行動したいと考えたことを実行していきたいです。

ぼくは、この広島派遣事業に参加して原爆や戦争のことを学べてよかったです。

交流がない人と交流を持てた。

最初は不安だったけど友達もできて楽しかったです。

実際に見て、聞いて、ふれて、すごく心に残りました。

この事業に参加して、原爆のことを身近に感じました。今回参加できたのは貴重な体験だと思いました。

平和の大切さを今の小学生や中学生に知ってもらうには、とだえてはいけない事業だと思う。そして平和とはなんなのか考えることができ、僕は良かったと思う。

ぼくは今回の平和学習で戦争がどれほどいけないことが分かった。平和は身近にもあるけれど、それを壊すのは簡単。だからこそ平和を作っていかなければならないと思いました。このような機会を作ってくれた方々に感謝します。

戦争は怖いとしか思わなかったけど、参加した後は、戦争は怖いということだけで表してはいけないものと分かってよかったです。

私は、この事業に参加できてよかったです。初めは、みんなにおいていかれないか心配でした。でもみんなと仲良くできて、おいていかれずよかったです。

自分の住む地域の戦争や広島で起こったことが、今までで一番よく知ることができた。この事業に参加したことにより、今までの自分がどれだけ恵まれていたのか理解でき、感謝したいと思った。これからは自分も「平和」のためにできることをやりたいと思った。

初めて会った人と楽しく、ときに真面目に平和事業ができてとてもいい体験になった。今の生活はあたりまえではなく、今の生活に感謝しないといけないことがよくわかった。

戦争、平和について、被爆者のかたのお話や、現地での実際の学びによって、より深く学ぶことができた。自分で実際に見る、体験することにより、想いが深まった。この事業を通して学んだことを周りに多く伝えて、つないでいきたいと思います。そして、平和について学び、たぐりよせ守ってほしいと思った。また、他校や他学年の子達と戦争や平和について話したり、他にも様々な話をしたりして、仲良くなりとても良い機会だった。楽しかった。

参加できて、本当によかった。一緒に学ぶ仲間にも恵まれ、一緒にいて、私たちを案内し、先導してくれたスタッフのかたにも、恵まれました。広島で起こったことを現実のことだとしっかり感じられました。この事業で学んだことは、一生の宝物です。

戦争が近くで起きたことや、いかに核兵器を使ってはいけないということが分かった。戦争について知らなかったことも知ることができて勉強になった。参加したメンバーとも仲良くなることできてよかった。貴重な経験ができました。ありがとうございました。

この貴重な体験で、悲しかったり悔しい気持ちが出たりもしたけど、移動中やご飯などで楽しい時間もあって、すごく充実していたと思います。

戦争の怖さや、平和とはなんなのかがよく分かった。

最初は知らない人ばかりで不安だったけど、友達も出来たし、平和学習も自分なりに考える事が出来た。

本などの文章だけでは分からないことまでわかったので、平和の大切さが分かりました。

実施後 今後、戦争・平和学習として実施してほしい事業、訪問してみたい場所など

世界の戦争と平和について、長崎、被害者のかたとの話、今回のメンバーとまた会いたいです。

お金はもしかしたら倍ぐらいかかってしまうが、長崎の原爆の所にも訪問してみたい。

広島の前爆のことだけではなく長崎のことも詳しくやってほしい。

呉市(いろいろな人の話に呉市の話があったからどんな所なのか気になったから。)

広島城、長崎への派遣。

次に行くことがあれば長崎に行きたい。

長崎、沖縄派遣事業。

韓国、中国、日本の加害の歴史を知りたい。

長崎(長崎の原爆を知りたい)、沖縄(沖縄戦を知りたい)。

東大和市平和都市宣言

恒久平和の実現と、核兵器の廃絶は、全人類共通の願望である。

世界の世論のたかまり、各国の相互理解により、核兵器の廃絶にむけて曙光が見えてきたとはいえ、依然として地球上には多くの核兵器が貯えられている。

世界で唯一の核被爆国の国民として、また、国際社会の平和と協調を理念とする憲法をもつ国の国民として、人類の安全と幸福のために、地域紛争を含むすべての戦争の防止と、あらゆる核兵器の廃絶を心から願うものである。

ここに、平和を愛する全世界の人々と手を携えて、戦争と核兵器のない世界の建設にむけて努力することをあらためて誓い、東大和市が平和都市であることを宣言する。

平成2年10月1日

宣言

東村山市核兵器廃絶平和都市宣言

地球上には、全ての生命と文明を一瞬にして滅亡させてなお余りある核兵器が存在し、人々はその脅威にさらされている。

世界唯一の核被爆体験を持つ国民として、いかなる地域においても、再び広島・長崎のあの惨禍を繰り返してはならない。我々市民は、核兵器がいかに悲惨なものであるかを、全世界に強く訴えるものである。

東村山市は、瞬時に自然を破壊し、人類の滅亡をもたらす核兵器の廃絶と、人類永遠の平和の願いをこめて、「核兵器廃絶平和都市」であることをここに宣言する。

昭和62年9月25日

東京都 東村山市

**令和5年度
東大和市・東村山市
地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業 報告書**

令和5年12月 発行

編集・発行

東大和市・東村山市広島派遣事業実行委員会

・東大和市教育部生涯学習課

東京都東大和市中央 3-930

電話 042-563-2111 (内線1555)

・東村山市市民部市民相談・交流課

東京都東村山市本町 1-2-3

電話 042-393-5111 (内線3313)